

Z400 漢字正誤リスト『用例で分かる 故事ことわざ辞典』

※内容に誤記のある見出し語をリストアップし、誤記部分の記載内容を抜粋して記載してあります。

◆あうんのこきゅう【阿吽の呼吸】

【注釈】誤:「阿吽」は「阿~~嬉~~」とも書く。→ 正:「阿吽」は「阿~~伝~~」とも書く。

◆あがきがとれない【足~~掻~~きがとれない】

【見出し語】誤: あがきがとれない【足~~惜~~きがとれない】→ 正: あがきがとれない【足~~掻~~きがとれない】

【注釈】誤:「足~~惜~~き」は自由になろうとしてもがくこと。→ 正:「足~~掻~~き」は自由になろうとしてもがくこと。

【用例】誤: 足~~惜~~きがとれない。→ 正: 足~~掻~~きがとれない。

◆あきなすびよめにくわすな【秋茄子嫁に食わすな】

【類句】誤: 秋~~衛~~(あきかます)は嫁に食わすな/秋鯖(あきさば)嫁に食わすな→ 正: 秋~~鮒~~(あきかます)は嫁に食わすな/秋鯖(あきさば)嫁に食わすな

◆あきのおうぎ【秋の扇】

【注釈】誤: 中国前漢の成帝に寵愛(ちょうあい)された班~~香康~~(はんしょうよ)という女性が、→ 正: 中国前漢の成帝に寵愛(ちょうあい)された班~~婕妤~~(はんしょうよ)という女性が、

◆あきんどとびょうぶはすぐにはたたぬ【商人と~~鬻~~風は直ぐには立たぬ】

【見出し語】誤: あきんどとびょうぶはすぐにはたたぬ【商人と~~鬻~~風は直ぐには立たぬ】→ 正: あきんどとびょうぶはすぐにはたたぬ【商人と~~屏~~風は直ぐには立たぬ】

【注釈】誤: ~~鬻~~風は折り曲げないと立たないように、→ 正: ~~屏~~風は折り曲げないと立たないように、

【注釈】誤:「商人と~~鬻~~風は曲がらねば立たぬ」「~~鬻~~風と商人は直ぐには立たぬ」ともいう。→ 正:「商人と~~屏~~風は曲がらねば立たぬ」「~~屏~~風と商人は直ぐには立たぬ」ともいう。

【類句】誤: 人と~~鬻~~風は直ぐには立たぬ→ 正: 人と~~屏~~風は直ぐには立たぬ

◆あきんどのうそはかみもおゆるし【商人の~~鬻~~は神もお許し】

【見出し語】誤: あきんどのうそはかみもおゆるし【商人の~~鬻~~は神もお許し】→ 正: あきんどのうそはかみもおゆるし【商人の~~嘘~~は神もお許し】

【本文】誤: 商人が商売上の駆け引きでつく~~鬻~~は→ 正: 商人が商売上の駆け引きでつく~~嘘~~は

◆あきんどのそらせいもん【商人の空誓文】

【本文】誤: 駆け引きや~~鬻~~(うそ)が多いので、→ 正: 駆け引きや~~嘘~~(うそ)が多いので、

【注釈】誤:「商人の空誓文と女の怖い皆~~鬻~~」ともいう。→ 正:「商人の空誓文と女の怖い皆~~嘘~~」ともいう。

◆あさちゃはしちりかえってもものめ【朝茶は七里帰っても飲め】

【類句】誤: 朝茶はその日の難逃れ/朝茶はその日の祈~~僣~~(きとう)→ 正: 朝茶はその日の難逃れ/朝茶はその日の祈~~禱~~(きとう)

◆あたまかくかじをかくか【頭~~搔~~くか字を書くか】

【見出し語】誤: あたまかくかじをかくか【頭~~愴~~くか字を書くか】→ 正: あたまかくかじをかくか【頭~~搔~~くか字を書くか】

【注釈】誤: 「~~愴~~く」と「書く」の語呂を合わせて、→ 正: 「~~搔~~く」と「書く」の語呂を合わせて、

◆あつものにこりてなますをふく【羹に懲りて膾を吹く】

【類句】誤: 蛇に~~筋~~(か)まれて朽(く)ち縄に怖(お)じる→ 正: 蛇に~~噬~~(か)まれて朽(く)ち縄に怖(お)じる

◆あとからはげるしょうがつことば【後から~~剝~~げる正月言葉】

【見出し語】誤: あとからはげるしょうがつことば【後から~~開~~げる正月言葉】→ 正: あとからはげるしょうがつことば【後から~~剝~~げる正月言葉】

◆あとばらがやめる【後腹が病める】

【用例】誤: [森~~貌~~外『妄想』]→ 正: [森~~鷗~~外『妄想』]

◆あみ、どんしゅうのうおをもらす【網、~~吞~~舟の魚を漏らす】

【見出し語】誤: ~~開~~舟の魚を漏らす→ 正: ~~吞~~舟の魚を漏らす】

【注釈】誤: 舟を~~開~~(の)み込むほどの大魚さえ漏らしてしまう意から。→ 正: 舟を~~吞~~(の)み込むほどの大魚さえ漏らしてしまう意から。

【注釈】誤: ~~開~~舟の魚→ 正: ~~吞~~舟の魚

◆いがたにはめたよう【鑄型にはめたよう】

【用例】誤: [森~~貌~~外『青年』]→ 正: [森~~鷗~~外『青年』]

◆いさかいをしいしいはらをおおきくし【諍いをしいしい腹を大きくし】

【英例】誤: Biting and scratching gets the cat with kitling. (~~筋~~(か)んだり引つ~~愴~~(か)いたりしながら猫に子猫をはらませる——kitling は子猫の方言)→ 正: Biting and scratching gets the cat with kitling. (~~噬~~(か)んだり引つ~~搔~~(か)いたりしながら猫に子猫をはらませる——kitling は子猫の方言)

◆いすかのはし【鶺鴒の嘴】

【見出し語】誤: いすかのはし【**鶺**の嘴】→ 正: いすかのはし【**鶺**の嘴】

【注釈】誤: **鶺**という鳥の嘴(くちばし)が上下湾曲して食い違い、→ 正: **鶺**という鳥の嘴(くちばし)が上下湾曲して食い違い、

【注釈】誤: 「**鶺**の嘴の食い違い」ともいう。→ 正: 「**鶺**の嘴の食い違い」ともいう。

【用例】誤: 行政側と市民側の言い分は**鶺**の嘴で、→ 正: 行政側と市民側の言い分は**鶺**の嘴で、

◆いたしかゆし【痛し痒し】

【注釈】誤: 痒いので**愠**(か)くと痛くなる。→ 正: 痒いので**搔**(か)くと痛くなる。

【注釈】誤: かといって**愠**かなければ痒いということから。→ 正: かといって**搔**かなければ痒いということから。

◆いちもんせんでなまづめはがす【一文銭で生爪剥がす】

【見出し語】誤: いちもんせんでなまづめはがす【一文銭で生爪**鬪**がす】→ 正: いちもんせんでなまづめはがす【一文銭で生爪**剥**がす】

◆いちようめをおおえばたいざんをみず【一葉目を蔽えば泰山を見ず】

【出典】誤: 『**豁**冠子(かつかんし)』天則→ 正: 『**鶺**冠子(かつかんし)』天則

◆いっきよりょうとく【一挙兩得】

【出典】誤: 『晋書(しんじょ)』束**墮**(そくせき)→ 正: 『晋書(しんじょ)』束**皙**(そくせき)

◆いっすんのむしにもごぶのたましい【一寸の虫にも五分の魂】

【類句】誤: **瘦**(や)せ腕にも骨→ 正: **瘦**(や)せ腕にも骨

◆いったんかんきゅうあれば【一旦緩急あれば】

【出典】誤: 『史記(しき)』袁**領**(えんおう)→ 正: 『史記(しき)』袁**盎**(えんおう)

◆いったんのし、いっぴょうのいん【一簞の食、一瓢の飲】

【見出し語】誤: いっぴょうのいん【一**員**の食、→ 正: いっぴょうのいん【一**簞**の食、

【注釈】誤: 「**員**」は竹製の食器、→ 正: 「**簞**」は竹製の食器、

◆いっとうちをぬく【一頭地を抜く】

【用例】誤: [森**貌**外『洪江抽斎』]→ 正: [森**鷗**外『洪江抽斎』]

◆いてもたってもいられない【居ても立っても居られない】

【用例】誤: 自分の髪をくしゃくしゃ引き**糺**(むし)ってしまいたく思いました。→ 正: 自分の髪をくしゃくしゃ引き**掻**(むし)ってしまいたく思いました。

◆いぬのとおぼえ【犬の遠吠え】

【英例】誤: Dogs that bark at a distance bite not at hand. (遠くで吠(ほ)える犬は近くで**筋**(か)まない)→
正: Dogs that bark at a distance bite not at hand. (遠くで吠(ほ)える犬は近くで**噛**(か)まない)

◆いのちながければほうらいにあう【命長ければ蓬萊に会う】

【見出し語】誤: いのちながければほうらいにあう【命長ければ蓬**翹**に会う】→ 正: いのちながければほうらいにあう【命長ければ蓬**萊**に会う】

【注釈】誤: 「蓬**翹**」は不老不死の仙人が住むという、→ 正: 「蓬**萊**」は不老不死の仙人が住むという、
【注釈】誤: 「命あれば蓬**翹**に会う」「命長ければ蓬**翹**を見る」ともいう。→ 正: 「命あれば蓬**萊**に会う」「命長ければ蓬**萊**を見る」ともいう。

◆いはつをつたう【衣鉢を伝う】

【用例】誤: [森**貍**外『洪江抽斎』]→ 正: [森**鷗**外『洪江抽斎』]

◆うえたるいぬはぼうをおそれず【飢えたる犬は棒を恐れず】

【類句】誤: **瘦**(や)せ馬鞭(むち)を恐れず→ 正: **瘦**(や)せ馬鞭(むち)を恐れず

◆うおごころあればみずごころ【魚心あれば水心】

【英例】誤: Claw me and I'll claw you. (**惜**(か)いてくれれば**惜**いてやる)→ 正: Claw me and I'll claw you. (**搔**(か)いてくれれば**搔**いてやる)

◆うごうのしゅう【烏合の衆】

【出典】誤: 『後漢書(ごかんじょ)』耿**灼**(こうえん)→ 正: 『後漢書(ごかんじょ)』耿**弇**(こうえん)

◆うさぎもなぬかなぶればかみつ【兎も七日なぶれば**噛**みつ】

【見出し語】誤: うさぎもなぬかなぶればかみつ【兎も七日なぶれば**筋**みつ】→ 正: うさぎもなぬかなぶればかみつ【兎も七日なぶれば**噛**みつ】

【注釈】誤: 七日間いじめられればついには**筋**みつ意から。→ 正: 七日間いじめられればついには**噛**みつ意から。

◆うしをくらのき【牛を食らうの気】

【類句】誤: 蛇(じゃ)は寸にして人を開(の)む → 正: 蛇(じゃ)は寸にして人を吞(の)む

◆うすがみをはぐよう【薄紙を剥ぐよう】

【見出し語】誤: うすがみをはぐよう【薄紙を開ぐよう】 → 正: うすがみをはぐよう【薄紙を剥ぐよう】

【本文】誤: 薄い紙を一枚一枚開ぎとるように → 正: 薄い紙を一枚一枚剥ぎとるように

【用例】誤: 日一日と薄紙を開ぐようによくなってきた。 → 正: 日一日と薄紙を剥ぐようによくなってきた。

◆うそからでたまこと【嘘から出た実】

【見出し語】誤: うそからでたまこと【鬪から出た実】 → 正: うそからでたまこと【嘘から出た実】

【本文】誤: 鬪として言ったことが → 正: 嘘として言ったことが

【類句】誤: 瓢員(ひょうたん)から駒が出る → 正: 瓢箆(ひょうたん)から駒が出る

◆うそつきはどろぼうのはじまり【嘘つきは泥棒の始まり】

【見出し語】誤: うそつきはどろぼうのはじまり【鬪つきは泥棒の始まり】 → 正: うそつきはどろぼうのはじまり【嘘つきは泥棒の始まり】

【本文】誤: 鬪を平気につくようになると → 正: 嘘を平気につくようになると

【本文】誤: だから鬪をつくということは、 → 正: だから嘘をつくということは、

【類句】誤: 鬪は盗人(ぬすびと)の始まり/鬪は盗みの基 → 正: 嘘は盗人(ぬすびと)の始まり/嘘は盗みの基

【英例】誤: He that will lie will steal. (鬪をつくる者は盗みをするようになる) → 正: He that will lie will steal. (嘘をつくる者は盗みをするようになる)

◆うそとぼうずのあたまはゆったことがない【嘘と坊主の頭は結ったことがない】

【見出し語】誤: うそとぼうずのあたまはゆったことがない【鬪と坊主の頭は結ったことがない】 → 正: うそとぼうずのあたまはゆったことがない【嘘と坊主の頭は結ったことがない】

【本文】誤: これまで鬪は一度も言ったことがないというしゃれ → 正: これまで嘘は一度も言ったことがないというしゃれ

【注釈】誤: 「鬪と坊主の髪は結ったことがない」ともいう。 → 正: 「嘘と坊主の髪は結ったことがない」ともいう。

◆うそにもたねがいる【嘘にも種が要る】

【見出し語】誤: うそにもたねがいる【鬪にも種が要る】 → 正: うそにもたねがいる【嘘にも種が要る】

【本文】誤: 鬪をつくるのにも → 正: 嘘をつくるのにも

◆うそはあとからはげる【嘘は後から剥げる】

【見出し語】誤: うそはあとからはげる【鬪は後から鬪げる】→ 正: うそはあとからはげる【嘘は後から剥げる】

【本文】誤: 鬪はあとでばれる→ 正: 嘘はあとでばれる

【本文】誤: 鬪をついても、→ 正: 嘘をついても、

【類句】誤: 鬪は一時/空言(そらごと)、→ 正: 嘘は一時/空言(そらごと)、

【類句】誤: 後から鬪げる→ 正: 後から剥げる

◆うそはっぴやく【嘘八百】

【見出し語】誤: うそはっぴやく【鬪八百】→ 正: うそはっぴやく【嘘八百】

【本文】誤: すべてが鬪だらけであること→ 正: すべてが嘘だらけであること

【用例】誤: 鬪八百を並べ立てて人をだます。→ 正: 嘘八百を並べ立てて人をだます。

◆うそもほうべん【嘘も方便】

【見出し語】誤: うそもほうべん【鬪も方便】→ 正: うそもほうべん【嘘も方便】

【本文】誤: 鬪も時と場合によっては→ 正: 嘘も時と場合によっては

【類句】誤: 鬪も世渡り→ 正: 嘘も世渡り

◆うそをつかねばほとけになれぬ【嘘をつかねば仏になれぬ】

【見出し語】誤: うそをつかねばほとけになれぬ【鬪をつかねば仏になれぬ】→ 正: うそをつかねばほとけになれぬ【嘘をつかねば仏になれぬ】

【本文】誤: 人を助けるためにつく鬪は許される。→ 正: 人を助けるためにつく嘘は許される。

【注釈】誤: 「鬪も方便」といわれるように、→ 正: 「嘘も方便」といわれるように、

【注釈】誤: 仏も衆生(しゅじょう)を救済するために鬪をついたとして、→ 正: 仏も衆生(しゅじょう)を救済するために嘘をついたとして、

【注釈】誤: 鬪の効用をこじつけていう。→ 正: 嘘の効用をこじつけていう。

◆うそをつくとえんまさまにしたをぬかれる【嘘をつくと閻魔様に舌を抜かれる】

【見出し語】誤: うそをつくとえんまさまにしたをぬかれる【鬪をつくと閻魔様に舌を抜かれる】→ 正: うそをつくとえんまさまにしたをぬかれる【嘘をつくと閻魔様に舌を抜かれる】

【本文】誤: 鬪をつくことは非常に悪いことだという戒め→ 正: 嘘をつくことは非常に悪いことだという戒め

【注釈】誤: 鬪をつくと、→ 正: 嘘をつくと、

【注釈】誤: 死んでから地獄の閻魔大王に二度と鬪がつけないように舌を抜かれるということから。→ 正: 死んでから地獄の閻魔大王に二度と嘘がつけないように舌を抜かれるということから。

【類句】誤: **闘**を言えば地獄へ行く→ 正: **嘘**を言えば地獄へ行く

◆うだつがあがらぬ【**税**が上がらぬ】

【見出し語】誤: うだつがあがらぬ【**貯**が上がらぬ】→ 正: うだつがあがらぬ【**税**が上がらぬ】

【注釈】誤: 「**貯**」は梁(はり)の上に立てて、→ 正: 「**税**」は梁(はり)の上に立てて、

【注釈】誤: 梁の上に**貯**を上げられない、→ 正: 梁の上に**税**を上げられない、

【用例】誤: いつまでたっても**貯**が上がらない。→ 正: いつまでたっても**税**が上がらない。

◆うちのまえのやせいぬ【家の前の**瘦**せ犬】

【見出し語】誤: うちのまえのやせいぬ【家の前の**魄**せ犬】→ 正: うちのまえのやせいぬ【家の前の**瘦**せ犬】

【注釈】誤: **魄**せこけて弱い犬も、→ 正: **瘦**せこけて弱い犬も、

◆うまやせてけながし【馬**瘦**せて毛長し】

【見出し語】誤: うまやせてけながし【馬**魄**せて毛長し】→ 正: うまやせてけながし【馬**瘦**せて毛長し】

【本文】誤: 馬は餌(えさ)がなくて**魄**せると毛ばかりが長く伸びるが→ 正: 馬は餌(えさ)がなくて**瘦**せると毛ばかりが長く伸びるが

◆うゆうにきす【烏有に帰す】

【用例】誤: 天**勳**居(てんいんきよ)は追っては蒐集(しゅうしゅう)した椿岳(ちんがく)の画集を出版する計画があったが、→ 正: 天**筠**居(てんいんきよ)は追っては蒐集(しゅうしゅう)した椿岳(ちんがく)の画集を出版する計画があったが、

◆うらみにむくゆるにとくをもつてす【怨みに報ゆるに徳を以てす】

【用例】誤: [森**貌**外『渋江抽斎』]→ 正: [森**鷗**外『渋江抽斎』]

◆うりのかわはだいまようにむかせよかきのかわはこじきにむかせよ【瓜の皮は大名に**剥**かせよ柿の皮は乞食に**剥**かせよ】

【見出し語】誤: うりのかわはだいまようにむかせよかきのかわはこじきにむかせよ【瓜の皮は大名に**罽**かせよ柿の皮は乞食に**罽**かせよ】→ 正: うりのかわはだいまようにむかせよかきのかわはこじきにむかせよ【瓜の皮は大名に**剥**かせよ柿の皮は乞食に**剥**かせよ】

◆うるしははげてもきじははげぬ【漆は**剥**げても生地は**剥**げぬ】

【見出し語】誤: うるしははげてもきじははげぬ【漆は**罽**げても生地は**罽**げぬ】→ 正: うるしははげてもきじははげぬ【漆は**剥**げても生地は**剥**げぬ】

◆えいゆう、いろをこのむ【英雄、色を好む】

【用例】誤:〔森**猊**外『渋江抽斎』〕→ 正:〔森**鷗**外『渋江抽斎』〕

◆えようのもちのかわ【栄耀の餅の皮】

【類句】誤:豆腐の皮を**開**(む)く→ 正:豆腐の皮を**剝**(む)く

◆えらんでかすをつかむ【選んでかすを搦む】

【見出し語】誤:えらんでかすをつかむ【選んでかすを**拙**む】→ 正:えらんでかすをつかむ【選んでかすを**搦**む】

◆えんといのちはつながれぬ【縁と命は繋がれぬ】

【見出し語】誤:えんといのちはつながれぬ【縁と命は**壓**がれぬ】→ 正:えんといのちはつながれぬ【縁と命は**繋**がれぬ】

◆えんのきれめはこでつなぐ【縁の切れ目は子で繋ぐ】

【見出し語】誤:えんのきれめはこでつなぐ【縁の切れ目は子で**壓**ぐ】→ 正:えんのきれめはこでつなぐ【縁の切れ目は子で**繋**ぐ】

◆えんのしたのちからもち【縁の下の力持ち】

【用例】誤:乙羽(おとわ)なき後の硯友社(けんゆうしゃ)の総務として『文芸**闘**楽部(くらぶ)』の一角に巨頭を振っていた…。→ 正:乙羽(おとわ)なき後の硯友社(けんゆうしゃ)の総務として『文芸**倶**楽部(くらぶ)』の一角に巨頭を振っていた…。

◆おおうそはつくともこうそはつくな【大嘘はつくと小嘘はつくな】

【見出し語】誤:おおうそはつくともこうそはつくな【大**闘**はつくと小**闘**はつくな】→ 正:おおうそはつくともこうそはつくな【大**嘘**はつくと小**嘘**はつくな】

【本文】誤:大きな**闘**は→ 正:大きな**嘘**は

【本文】誤:だれが聞いてもはじめから**闘**ではないかと疑って信用しないから、→ 正:だれが聞いてもはじめから**嘘**ではないかと疑って信用しないから、

【本文】誤:小さな**闘**は、→ 正:小さな**嘘**は、

◆おおづかみよりこづかみ【大搦みより小搦み】

【見出し語】誤:おおづかみよりこづかみ【大**拙**みより小**拙**み】→ 正:おおづかみよりこづかみ【大**搦**みより小**搦**み】

◆おおどりよりこどり【大取りより小取り】

【類句】誤: 大拙(おおづか)みより小拙み → 正: 大搦(おおづか)みより小搦み

◆おくびにもださない【噁気にも出さない】

【見出し語】誤: おくびにもださない【勤気にも出さない】→ 正: おくびにもださない【噁気にも出さない】

【注釈】誤: 「勤気」はげっぷのこと。→ 正: 「噁気」はげっぷのこと。

【注釈】誤: 「勤気にも見せない」ともいう。→ 正: 「噁気にも見せない」ともいう。

◆おとがいではえをおう【頤で蠅を追う】

【本文】誤: 醜(や)せ衰えて元気がないようす → 正: 瘦(や)せ衰えて元気がないようす

◆おとこだてよりこなべだて【男伊達より小鍋だて】

【注釈】誤: 「男伊達」は鯨客(きょうかく)。→ 正: 「男伊達」は俠客(きょうかく)。

【類句】誤: 義理張るより茲(ほお)張れ → 正: 義理張るより頰(ほお)張れ

【類句】誤: 見栄張るより茲張れ → 正: 見栄張るより頰張れ

◆おぼれるものはわらをもつかむ【溺れる者は藁をも搦む】

【見出し語】誤: おぼれるものはわらをもつかむ【溺れる者は藁をも拙む】 → 正: おぼれるものはわらをもつかむ【溺れる者は藁をも搦む】

【注釈】誤: 水に浮かんでいる藁のような頼りないものでも拙んで助かろうとする意から。→ 正: 水に浮かんでいる藁のような頼りないものでも搦んで助かろうとする意から。

◆おもいなかばにすぐ【思い半ばに過ぐ】

【出典】誤: 『易経(えききょう)』壓辞(けいじ)・下 → 正: 『易経(えききょう)』繫辞(けいじ)・下

◆おをふるいぬもかむことあり【尾を振る犬も噛むことあり】

【見出し語】誤: おをふるいぬもかむことあり【尾を振る犬も筋むことあり】 → 正: おをふるいぬもかむことあり【尾を振る犬も噛むことあり】

◆おんなのかみのけにはたいぞうもつながる【女の髪の毛には大象も繫がる】

【見出し語】誤: おんなのかみのけにはたいぞうもつながる【女の髪の毛には大象も壓がる】 → 正: おんなのかみのけにはたいぞうもつながる【女の髪の毛には大象も繫がる】

【類句】誤: 千人の男壓ぐ → 正: 千人の男繫ぐ

◆おんをあだでかえす【恩を仇で返す】

【英例】誤: to bite the hand that feeds you (餌(えさ)をくれた手に筋みつ)→ 正: to bite the hand that feeds you (餌(えさ)をくれた手に噛みつ)

◆かいいぬにてをかまれる【飼い犬に手を噛まれる】

【見出し語】誤: かいいぬにてをかまれる【飼い犬に手を筋まれる】→ 正: かいいぬにてをかまれる【飼い犬に手を噛まれる】

【英例】誤: A man may cause his own dog to bite him. (飼い犬に手を筋まれるもおのれゆえ)→ 正: A man may cause his own dog to bite him. (飼い犬に手を噛まれるもおのれゆえ)

◆かえるはくちからのまる【蛙は口から呑まる】

【見出し語】誤: かえるはくちからのまる【蛙は口から鬩まる】→ 正: かえるはくちからのまる【蛙は口から呑まる】

【注釈】誤: 鳴き声で居場所を知られてしまうために蛇に鬩まれることから。→ 正: 鳴き声で居場所を知られてしまうために蛇に呑まれることから。

◆がきにおがら【餓鬼に芋殻】

【注釈】誤: 骨と皮ばかりに魄(や)せている亡者。→ 正: 骨と皮ばかりに瘦(や)せている亡者。

【注釈】誤: 魄せおとろえて頼りにならない餓鬼に、→ 正: 瘦せおとろえて頼りにならない餓鬼に、

◆かげのかたちにしたがうがごとし【影の形に随うが如し】

【用例】誤: [森貍外『渋江抽斎』]→ 正: [森鷗外『渋江抽斎』]

◆かじあとのひのようじん【火事あとの火の用心】

【類句】誤: 燃えついてからの火祈僮/盗られたあとの戸締まり→ 正: 燃えついてからの火祈禱/盗られたあとの戸締まり

◆かたずをのむ【固唾を呑む】

【見出し語】誤: かたずをのむ【固唾を鬩む】→ 正: かたずをのむ【固唾を呑む】

【注釈】誤: それを鬩み込んで見つめることから。→ 正: それを呑み込んで見つめることから。

【用例】誤: サーカスの綱渡りを固唾を鬩んで見つめる。→ 正: サーカスの綱渡りを固唾を呑んで見つめる。

◆かたなおれやつきる【刀折れ矢尽きる】

【出典】誤: 『後漢書(ごかんじょ)』段噴(だんけい)→ 正: 『後漢書(ごかんじょ)』段頰(だんけい)

◆かたみがせまい【肩身が狭い】

【用例】誤:〔森**貌**外『洪江抽斎』〕→ 正:〔森**鷗**外『洪江抽斎』〕

◆かつかそうよう【隔靴搔痒】

【見出し語】誤: かつかそうよう【隔靴**惜**痒】→ 正: かつかそうよう【隔靴**搔**痒】

【注釈】誤: 靴の上から足の痒(かゆ)い所を**惜**(か)く意から。→ 正: 靴の上から足の痒(かゆ)い所を**搔**(か)く意から。

【注釈】誤: 「靴を隔(へだ)てて痒きを**惜**く」ともいう。→ 正: 「靴を隔(へだ)てて痒きを**搔**く」ともいう。

【反句】誤: 麻姑(まこ)**惜**痒→ 正: 麻姑(まこ)**搔**痒

【英例】誤: to have an itch that one cannot scratch (**惜**けないところが痒い)→ 正: to have an itch that one cannot scratch (**搔**けないところが痒い)

【用例】誤: 見ていて隔靴**惜**痒の感がある。→ 正: 見ていて隔靴**搔**痒の感がある。

◆かなぼうひき【鉄棒引き】

【用例】誤:〔森**貌**外『雁』〕→ 正:〔森**鷗**外『雁』〕

◆かねにいとめをつけぬ【金に糸目を付けぬ】

【用例】誤: 天**勳**居(てんいんきよ)の買い占めが樁岳の相場を狂わして俄(にわか)に騰貴(とうき)したといわれるほど金に糸目を付けなくて集めたもので、→ 正: 天**筭**居(てんいんきよ)の買い占めが樁岳の相場を狂わして俄(にわか)に騰貴(とうき)したといわれるほど金に糸目を付けなくて集めたもので、

◆かみあういぬはよびがたし【**噛**み合う犬は呼び難し】

【見出し語】誤: かみあういぬはよびがたし【**筋**み合う犬は呼び難し】→ 正: かみあういぬはよびがたし

【**噛**み合う犬は呼び難し】

【注釈】誤: **筋**み合って喧嘩(けんか)をしている犬には、→ 正: **噛**み合って喧嘩(けんか)をしている犬には、

◆かむうまはしまいまでかむ【**噛**む馬はしまいまで**噛**む】

【見出し語】誤: かむうまはしまいまでかむ【**筋**む馬はしまいまで**筋**む】→ 正: かむうまはしまいまでかむ【**噛**む馬はしまいまで**噛**む】

【注釈】誤: 人に**筋**みつ馬は死ぬまで**筋**みつということから。→ 正: 人に**噛**みつ馬は死ぬまで**噛**みつということから。

◆かものみずかき【鴨の水掻き】

【見出し語】誤: かものみずかき【鴨の水惜き】→ 正: かものみずかき【鴨の水掻き】

【注釈】誤: 水の中では絶えず足で水を惜いていることから。→ 正: 水の中では絶えず足で水を掻いていることから。

◆かわひとえ【皮一重】

【類句】誤: 美しいも皮一重(ひとえ)/紙一重/皮一枚開(は)げば美人も髑髏(されこうべ)→ 正: 美しいも皮一重(ひとえ)/紙一重/皮一枚剝(は)げば美人も髑髏(されこうべ)

◆かんたんあいてらす【肝胆相照らす】

【注釈】誤: 「肝胆」は肝臓と胆苦(たんのう)のこと。→ 正: 「肝胆」は肝臓と胆囊(たんのう)のこと。

◆かんたんをくだく【肝胆を砕く】

【注釈】誤: 「肝胆」は肝臓と胆苦(たんのう)のこと。→ 正: 「肝胆」は肝臓と胆囊(たんのう)のこと。

◆かんたんをひらく【肝胆を披く】

【注釈】誤: 「肝胆」は肝臓(かんぞう)と胆苦(たんのう)のこと。→ 正: 「肝胆」は肝臓(かんぞう)と胆囊(たんのう)のこと。

◆がんぶつそうし【玩物喪志】

【出典】誤: 『書経(しよきょう)』旅忙(りょごう)→ 正: 『書経(しよきょう)』旅整(りょごう)

◆かんりてんとう【冠履顛倒】

【見出し語】誤: かんりてんとう【冠履莖倒】→ 正: かんりてんとう【冠履顛倒】

【注釈】誤: 「莖倒」は逆さまになることで、→ 正: 「顛倒」は逆さまになることで、

◆かんをおおいてことさだまる【棺を蓋いて事定まる】

【出典】誤: 杜甫(とほ)「君不見簡蘇輶(きみみずかんそけい)」→ 正: 杜甫(とほ)「君不見簡蘇篋(きみみずかんそけい)」

◆きおうはとがめず【既往は咎めず】

【出典】誤: 『論語(ろんご)』八飲(はちいつ)→ 正: 『論語(ろんご)』八愆(はちいつ)

◆きじもなかずばうたれまい【雉も鳴かずば撃たれまい】

【英例】誤: Quietness is best, as the fox said when he bit the cock's head off. (雄鶏(おんどり)の頭を筋(か)み切った狐が言ったように、→ 正: Quietness is best, as the fox said when he bit the cock's head off. (雄鶏(おんどり)の頭を噉(か)み切った狐が言ったように、

◆きじゅ【喜寿】

【注釈】誤: 「喜」の草書体「𠄎」が「七十七」と読めるところから。→ 正: 「喜」の草書体「𠄎」が「七十七」と読めるところから。

◆ぎしん、あんきをしょうず【疑心、暗鬼を生ず】

【類句】誤: 窃乗(せつぷ)の疑い→ 正: 窃鈇(せつぷ)の疑い

◆きそくをのばす【驥足を展ばす】

【出典】誤: 『三国志』蜀志(しよくし)・韋統(ほうとう)→ 正: 『三国志』蜀志(しよくし)・龐統(ほうとう)

◆きつくつごうが【佞屈整牙】

【見出し語】誤: きつくつごうが【佞屈瘡牙】→ 正: きつくつごうが【佞屈整牙】

【注釈】誤: 「佞屈」も「瘡牙」も文章や言い回しがむずかしくてわかりにくいこと。→ 正: 「佞屈」も「整牙」も文章や言い回しがむずかしくてわかりにくいこと。

【用例】誤: 佞屈瘡牙な文章。→ 正: 佞屈整牙な文章。

◆きゆうかつをじよする【久闊を叙する】

【用例】誤: [森猊外『渋江抽斎』]→ 正: [森鷗外『渋江抽斎』]

◆きゆうじんのこうをいっきにかく【九仞の功を一簣に虧く】

【出典】誤: 『書経(しよきょう)』旅忙(りょごう)→ 正: 『書経(しよきょう)』旅整(りょごう)

◆きゆうすればつうず【窮すれば通ず】

【出典】誤: 『易経(えききょう)』歴辞(けいじ)・下→ 正: 『易経(えききょう)』繫辞(けいじ)・下

◆きゆうそ、ねこをかむ【窮鼠、猫を噉む】

【見出し語】誤: 猫を筋む→ 正: 猫を噉む

【注釈】誤: 必死で猫に筋みつ意から。→ 正: 必死で猫に噉みつ意から。

◆きゅうぼくはえるべからず【朽木は雕るべからず】

【注釈】誤: この語のあとに「糞土(ふんど)の牆(しょう)は濁(ぬ)るべからず(ぼろぼろに腐った土塀には、

→ 正: この語のあとに「糞土(ふんど)の牆(しょう)は朽(ぬ)るべからず(ぼろぼろに腐った土塀には、

◆きょうちゅう、せいちくあり【胸中、成竹あり】

【出典】誤: 蘇軾(そしよく)「尸呻谷偃竹記(うんとうこくえんちくのき)」→ 正: 蘇軾(そしよく)「箕筥谷偃竹記(うんとうこくえんちくのき)」

◆ぎりとふんどし、かかされぬ【義理と禪、欠かされぬ】

【反句】誤: 義理張るより茲張(ほおば)れ→ 正: 義理張るより頰張(ほおば)れ

◆きりののうちゅうにおるがごとし【錐の囊中に処るが如し】

【見出し語】誤: きりののうちゅうにおるがごとし【錐の苦中に処るが如し】→ 正: きりののうちゅうにおるがごとし【錐の囊中に処るが如し】

【注釈】誤: 「苦中」は袋の中。→ 正: 「囊中」は袋の中。

【注釈】誤: 「苦中の錐」ともいう。→ 正: 「囊中の錐」ともいう。

【用例】誤: まさに錐の苦中に処るが如しで、→ 正: まさに錐の囊中に処るが如しで、

◆ぎりばるよりほおばれ【義理張るより頰張れ】

【見出し語】誤: ぎりばるよりほおばれ【義理張るより茲張れ】→ 正: ぎりばるよりほおばれ【義理張るより頰張れ】

【類句】誤: 見栄(みえ)張るより茲張れ→ 正: 見栄(みえ)張るより頰張れ

◆きりんじ【麒麟児】

【注釈】誤: なお「騏蚪の躑(つまず)き」や「騏蚪(きりん)も老いては驚馬(どば)に劣る」の「騏蚪」とは別のもの。→ 正: なお「騏驎の躑(つまず)き」や「騏驎(きりん)も老いては驚馬(どば)に劣る」の「騏驎」とは別のもの。

◆きりんのつまずき【騏驎の躑き】

【見出し語】誤: きりんのつまずき【騏蚪の躑き】→ 正: きりんのつまずき【騏驎の躑き】

【注釈】誤: 「騏蚪」は一日に千里を走るというすぐれた馬。→ 正: 「騏驎」は一日に千里を走るというすぐれた馬。

◆きりんもおいてはどばにおとる【騏驎も老いては驚馬に劣る】

【見出し語】誤: きりんもおいてはどばにおとる【騏~~蚪~~も老いては驚馬に劣る】→ 正: きりんもおいてはどばにおとる【騏~~驎~~も老いては驚馬に劣る】

【注釈】誤: 「騏~~蚪~~」は一日に千里を走るというすぐれた馬で、→ 正: 「騏~~驎~~」は一日に千里を走るというすぐれた馬で、

【注釈】誤: 騏~~蚪~~のような駿馬(しゅんめ)も老いれば駄馬にさえ劣ってしまう意から。→ 正: 騏~~驎~~のような駿馬(しゅんめ)も老いれば駄馬にさえ劣ってしまう意から。

◆きんじょうとうち【金城湯池】

【出典】誤: 『漢書(かんじょ)』~~懣~~通(かいつう)→ 正: 『漢書(かんじょ)』~~崩~~通(かいつう)

◆きんらんのちぎり【金蘭の契り】

【出典】誤: 『易経(えききょう)』~~壓~~辞(けいじ)・上→ 正: 『易経(えききょう)』~~繫~~辞(けいじ)・上

◆くいつくいぬはほえつかぬ【食いつく犬は吠えつかぬ】

【注釈】誤: ~~筋~~(か)みつく犬はやたらに吠えない意から。→ 正: ~~嚙~~(か)みつく犬はやたらに吠えない意から。

【英例】誤: めったに~~筋~~みつかない→ 正: めったに~~嚙~~みつかない

◆くおうとてやせる【食おうとて瘦せる】

【見出し語】誤: くおうとてやせる【食おうとて~~瘦~~せる】→ 正: くおうとてやせる【食おうとて~~瘦~~せる】

【本文】誤: ~~瘦~~(や)せる思いをすること。→ 正: ~~瘦~~(や)せる思いをすること。

【本文】誤: 食べるために~~瘦~~せるという皮肉な矛盾(むじゅん)をいう。→ 正: 食べるために~~瘦~~せるという皮肉な矛盾(むじゅん)をいう。

◆くさってもたい【腐っても鯛】

【反句】誤: 騏~~蚪~~(きりん)も老いては驚馬(どば)に劣る→ 正: 騏~~驎~~(きりん)も老いては驚馬(どば)に劣る

◆くさりなわにうまをつなぐ【腐り縄に馬を繋ぐ】

【見出し語】誤: くさりなわにうまをつなぐ【腐り縄に馬を~~壓~~ぐ】→ 正: くさりなわにうまをつなぐ【腐り縄に馬を~~繫~~ぐ】

【類句】誤: 朽(く)ち縄に取り付く如(ごと)し/朽索(きゅうさく)六馬(りくば)を馭(ぎよ)するが如し/蜘蛛(くも)の家に馬を~~壓~~ぐ→ 正: 朽(く)ち縄に取り付く如(ごと)し/朽索(きゅうさく)六馬(りくば)を馭(ぎよ)するが如し/蜘蛛(くも)の家に馬を~~繫~~ぐ

◆くちなわのくちさけ【くちなわの口裂け】

【注釈】誤: 口より大きなものを闊(の)み込もうとして、→ 正: 口より大きなものを呑(の)み込もうとして、

◆くちにつかわれる【口に使われる】

【類句】誤: 食おうとて魄せる/口に孝行する/口ゆえに使われる→ 正: 食おうとて瘦せる/口に孝行する/口ゆえに使われる

◆くつをへだててかゆきをか【靴を隔てて痒きを搔く】

【見出し語】誤: くつをへだててかゆきをか【靴を隔てて痒きを惜く】→ 正: くつをへだててかゆきをか【靴を隔てて痒きを搔く】

【本文】誤: 隔靴惜痒(かっかそうよう)→ 正: 隔靴搔痒(かっかそうよう)

◆くもをつかむ【雲を搦む】

【見出し語】誤: くもをつかむ【雲を拙む】→ 正: くもをつかむ【雲を搦む】

◆くもをつかんでなをかむ【雲を搦んで鼻をかむ】

【見出し語】誤: くもをつかんでなをかむ【雲を拙んで鼻をかむ】→ 正: くもをつかんでなをかむ【雲を搦んで鼻をかむ】

◆くらがりにおにをつなぐ【暗がりに鬼を繋ぐ】

【見出し語】誤: くらがりにおにをつなぐ【暗がりに鬼を壓ぐ】→ 正: くらがりにおにをつなぐ【暗がりに鬼を繋ぐ】

【注釈】誤: 「暗がりの鬼」「暗隅(くらすみ)に鬼を壓ぐ」ともいう。→ 正: 「暗がりの鬼」「暗隅(くらすみ)に鬼を繋ぐ」ともいう。

◆くらがりのはじをあかるみへ出す【暗がりの恥を明るみへ出す】

【類句】誤: 暗闇の恥を明るみで惜く/日陰の恥を日向(ひなた)へ出す→ 正: 暗闇の恥を明るみで搔く/日陰の恥を日向(ひなた)へ出す

◆くらやみのほおかぶり【暗闇の頬被り】

【見出し語】誤: くらやみのほおかぶり【暗闇の茲被り】→ 正: くらやみのほおかぶり【暗闇の頬被り】

【注釈】誤: 暗闇の中で茲被りをして顔を隠しても、→ 正: 暗闇の中で頬被りをして顔を隠しても、

【意味】誤: 「暗がりの茲被り」ともいう。→ 正: 「暗がりの頬被り」ともいう。

◆くれないはそのうにうえてもかくれなし【紅は園生に植えても隠れなし】

【類句】誤: 錐(きり)の**莖**中(のうちゅう)に処(お)るが如(ごと)し → 正: 錐(きり)の**莖**中(のうちゅう)に処(お)るが如(ごと)し

◆くろいぬにかまれてあくのたれかすにおじる【黒犬に噛まれて灰汁の垂れ滓に怖じる】

【見出し語】誤: くろいぬにかまれてあくのたれかすにおじる【黒犬に**筋**まれて灰汁の垂れ滓に怖じる】

→ 正: くろいぬにかまれてあくのたれかすにおじる【黒犬に**噛**まれて灰汁の垂れ滓に怖じる】

【注釈】誤: 黒犬に**筋**まれた者は、 → 正: 黒犬に**噛**まれた者は、

【類句】誤: 蛇に**筋**まれて朽(く)ち縄に怖じる → 正: 蛇に**噛**まれて朽(く)ち縄に怖じる

◆くんはこうをもってみずからやく【薫は香を以て自ら焼く】

【出典】誤: 『漢書(かんじょ)』**韃**勝(きょうしょう) → 正: 『漢書(かんじょ)』**龔**勝(きょうしょう)

◆けんじゃひだるしだてさむし【賢者ひだるし伊達寒し】

【本文】誤: **醜**(や)せがまんしたり、 → 正: **瘦**(や)せがまんしたり、

◆こうかくにつかねる【高閣に束ねる】

【出典】誤: 『晋書(しんじょ)』**搶**翼(ゆよく) → 正: 『晋書(しんじょ)』**庾**翼(ゆよく)

◆こうぼうにもふでのあやまり【弘法にも筆の誤り】

【本文】誤: 騏**蚪**(きりん)の躑(つまず)き → 正: 騏**麟**(きりん)の躑(つまず)き

◆こうみょうをちくはくにたる【功名を竹帛に垂る】

【出典】誤: 『後漢書(ごかんじょ)』**眷**禹(とうう) → 正: 『後漢書(ごかんじょ)』**鄧**禹(とうう)

◆ごうをにやす【業を煮やす】

【用例】誤: 誰の前でも怯(お)めず臆(お)せずペロンペロンと**惜**き鳴らし、 → 正: 誰の前でも怯(お)めず臆(お)せずペロンペロンと**搔**き鳴らし、

◆ごがつわらびはよめにくわせるな【五月蕨は嫁に食わせるな】

【類句】誤: 秋茄子(あきなすび)嫁に食(く)わすな/秋**衛**(あきかます)は嫁に食(く)わすな → 正: 秋茄子(あきなすび)嫁に食(く)わすな/秋**鮒**(あきかます)は嫁に食(く)わすな

◆こくさくのきよう【告朔の餽羊】

【見出し語】誤: こくさくのきよう【告朔の~~蒞~~羊】→ 正: こくさくのきよう【告朔の~~餽~~羊】

【注釈】誤: 「~~蒞~~羊」はその祭事に供えるいけにえの羊。→ 正: 「~~餽~~羊」はその祭事に供えるいけにえの羊。

【出典】誤: 『論語(ろんご)』八~~飲~~(はちいつ)→ 正: 『論語(ろんご)』八~~佾~~(はちいつ)

◆こけらおとし【~~柿~~落とし】

【見出し語】誤: こけらおとし【~~達~~落とし】→ 正: こけらおとし【~~柿~~落とし】

【注釈】誤: 「~~達~~」は木材の削りくずのことで、→ 正: 「~~柿~~」は木材の削りくずのことで、

【用例】誤: 新オペラ座の~~達~~落としに招待された。→ 正: 新オペラ座の~~柿~~落としに招待された。

◆こごめもかめばあまくなる【~~粉~~米も~~噛~~めば甘くなる】

【見出し語】誤: こごめもかめばあまくなる【~~粉~~米も~~筋~~めば甘くなる】→ 正: こごめもかめばあまくなる

【~~粉~~米も~~噛~~めば甘くなる】

【本文】誤: なにごともよく~~筋~~みしめて味わってみなければ→ 正: なにごともよく~~噛~~みしめて味わってみなければ

【注釈】誤: くずのような米でもよく~~筋~~んで食べればおいしい味が出てくるの意から。→ 正: くずのような米でもよく~~噛~~んで食べればおいしい味が出てくるの意から。

【類句】誤: 小糠(こぬか)も~~筋~~めば甘くなる→ 正: 小糠(こぬか)も~~噛~~めば甘くなる

◆こころざしあるものはことついでなる【志ある者は事竟に成る】

【出典】誤: 『後漢書(ごかんじょ)』耿~~灼~~(こうえん)→ 正: 『後漢書(ごかんじょ)』耿~~龢~~(こうえん)

◆こしょうのまるのみ【胡椒の丸~~吞~~み】

【見出し語】誤: こしょうのまるのみ【胡椒の丸~~園~~み】→ 正: こしょうのまるのみ【胡椒の丸~~吞~~み】

【注釈】誤: かみ砕いてはじめて味が出る胡椒を丸~~園~~みにしてしまうことから。→ 正: かみ砕いてはじめて味が出る胡椒を丸~~吞~~みにしてしまうことから。

◆こはかすがい【子は~~鏝~~】

【類句】誤: 縁の切れ目は子で~~壓~~(つなぐ)→ 正: 縁の切れ目は子で~~繫~~(つなぐ)

◆ごまめでもおかしらつき【鱈でも尾頭つき】

【見出し語】誤: ごまめでもおかしらつき【**訶**でも尾頭つき】→ 正: ごまめでもおかしらつき【**鱈**でも尾頭つき】

【注釈】誤: 「**訶**」は片口鰯(かたくちいわし)を干したもので、→ 正: 「**鱈**」は片口鰯(かたくちいわし)を干したもので、

◆ごまめのはぎしり【鱈の歯軋り】

【見出し語】誤: ごまめのはぎしり【**訶**の歯軋り】→ 正: ごまめのはぎしり【**鱈**の歯軋り】

【注釈】誤: 「**訶**」は片口鰯(かたくちいわし)を干したもので、→ 正: 「**鱈**」は片口鰯(かたくちいわし)を干したもので、

【注釈】誤: 小さくて干からびた**訶**が歯軋りして憤慨する姿の連想から。→ 正: 小さくて干からびた**鱈**が歯軋りして憤慨する姿の連想から。

【用例】誤: **訶**の歯軋りさ。→ 正: **鱈**の歯軋りさ。

◆こむらのいぬはひとをかむ【小村の犬は人を噛む】

【見出し語】誤: こむらのいぬはひとをかむ【小村の犬は人を**筋**む】→ 正: こむらのいぬはひとをかむ【小村の犬は人を**噛**む】

◆さかなはとのさまにやかせよもちはこじきにやかせよ【魚は殿様に焼かせよ餅は乞食に焼かせよ】

【類句】誤: 瓜(うり)の皮は大名に**鬧**(む)かせよ柿(かき)の皮は乞食に**鬧**かせよ→ 正: 瓜(うり)の皮は大名に**剝**(む)かせよ柿(かき)の皮は乞食に**剝**かせよ

◆さたん【左袒】

【用例】誤: [森**猊**外『渋江抽斎』]→ 正: [森**鷗**外『渋江抽斎』]

◆ざゆうのめい【座右の銘】

【出典】誤: 崔**明**(さいえん)「座右銘」→ 正: 崔**瑗**(さいえん)「座右銘」

◆さんじゅ【傘寿】

【注釈】誤: 「傘」の略字「**按**」が「八十」と読めることから。→ 正: 「傘」の略字「**全**」が「八十」と読めることから。

◆ししく【獅子吼】

【用例】誤: **猊**外(おうがい)は千朶(せんだ)山房に群賢を集めて獅子吼し、→ 正: **鷗**外(おうがい)は千朶(せんだ)山房に群賢を集めて獅子吼し、

◆じだんだをふむ【地団駄を踏む】

【注釈】誤:「地踏芒(じたたら)」の転じた語で、→ 正:「地踏籟(じたたら)」の転じた語で、

◆しちてんぱつとう【七転八倒】

【注釈】誤:「七転」は「七莖」とも書き、→ 正:「七転」は「七顛」とも書き、

◆しちほのさい【七歩の才】

【故事】誤: 豆を煮るに愚(まめがら)を燃(た)く→ 正: 豆を煮るに莖(まめがら)を燃(た)く

◆しってとうはれいなり【知って問うは礼なり】

【出典】誤:『論語(ろんご)』八飲(はちいつ)→ 正:『論語(ろんご)』八佞(はちいつ)

◆じつはうそのおくにあり【実は嘘の奥にあり】

【見出し語】誤: じつはうそのおくにあり【実は鬪の奥にあり】→ 正: じつはうそのおくにあり【実は嘘の奥にあり】

【本文】誤: 鬪のように思われても→ 正: 嘘のように思われても

◆しっぽをだす【尻尾を出す】

【類句】誤: 化けの皮が鬪(は)がれる→ 正: 化けの皮が剝(は)がれる

◆しにんにもうご【死人に妄語】

【本文】誤: 生きている者が鬪(うそ)をついて→ 正: 生きている者が嘘(うそ)をついて

【注釈】誤:「妄語」は鬪をつくこと。→ 正:「妄語」は嘘をつくこと。

◆しめしめというものにしんだためしなし【死ぬ死ぬと言う者に死んだ例なし】

【類句】誤: 死にたいと麦飯食いたいほど大きな鬪(うそ)はない→ 正: 死にたいと麦飯食いたいほど大きな嘘(うそ)はない

◆しめるばかりはまこと【死ぬるばかりは真】

【本文】誤: 鬪(うそ)だらけのこの世の中で→ 正: 嘘(うそ)だらけのこの世の中で

【本文】誤: 鬪偽りのない厳肅な事実だということ。→ 正: 嘘偽りのない厳肅な事実だということ。

◆じゃあればかんばし【麝あれば香し】

【注釈】誤: 麝香鹿の雄の腹部にある麝香腺の香苦(こうのう)から作る香料。→ 正: 麝香鹿の雄の腹部にある麝香腺の香囊(こうのう)から作る香料。

◆しゃくしはみみかきにならず【杓子は耳搔きにならず】

【見出し語】誤: しゃくしはみみかきにならず【杓子は耳惜きにならず】→ 正: しゃくしはみみかきにならず【杓子は耳搔きにならず】

【注釈】誤: 耳惜きの代わりにはならないところから。→ 正: 耳搔きの代わりにはならないところから。

◆じゃこうはへそゆえいのちをとられる【麝香は臍故命をとられる】

【注釈】誤: 麝香鹿(じゃこうじか)は腹部に香料の材料になる香荳(こうのう)をもっているために人間に殺されるの意から。→ 正: 麝香鹿(じゃこうじか)は腹部に香料の材料になる香囊(こうのう)をもっているために人間に殺されるの意から。

◆じゃはすんにしてひとをのむ【蛇は寸にして人を吞む】

【見出し語】誤: じゃはすんにしてひとをのむ【蛇は寸にして人を聞む】→ 正: じゃはすんにしてひとをのむ【蛇は寸にして人を吞む】

【注釈】誤: 大きい人間を聞み込もうとするほどの勢いや気迫を持っている意から。→ 正: 大きい人間を吞み込もうとするほどの勢いや気迫を持っている意から。

◆しゅうしんせいかちこくへいてんか【修身齐家治国平天下】

【用例】誤: [森猊外『青年』]→ 正: [森鷗外『青年』]

◆じゅうばこになべぶた【重箱に鍋蓋】

【類句】誤: 円鑿方樽(えんさくほうぜい)→ 正: 円鑿方柄(えんさくほうぜい)

◆じゅうばこににしめ【重箱に煮締め】

【注釈】誤: 野菜を漬油で煮ただけの料理を入れる意から。→ 正: 野菜を醬油で煮ただけの料理を入れる意から。

◆しゅかくてんとう【主客転倒】

【注釈】誤: 「転倒」は「莖倒」とも書く。→ 正: 「転倒」は「顛倒」とも書く。

◆しゅんじつち【春日遅遅】

【出典】誤: 『詩経(しきょう)』漿風(ひんぷう)・七月→ 正: 『詩経(しきょう)』幽風(ひんぷう)・七月

◆じょうずなうそよりへたなじつい【上手な嘘より下手な実意】

【見出し語】誤: じょうずなうそよりへたなじつい【上手な闘より下手な実意】→ 正: じょうずなうそよりへたなじつい【上手な嘘より下手な実意】

◆じょうだんからこまがでる【冗談から駒が出る】

【注釈】誤:「瓢**眞**(ひょうたん)から駒が出る」のもじりで、→ 正:「瓢**篋**(ひょうたん)から駒が出る」のもじりで、

【類句】誤: **鬪**(うそ)から出た実(まこと)→ 正: **嘘**(うそ)から出た実(まこと)

◆しょうゆでにしめたよう【**醤油**で煮しめたよう】

【見出し語】誤: しょうゆでにしめたよう【**漬**油で煮しめたよう】→ 正: しょうゆでにしめたよう【**醤油**で煮しめたよう】

【本文】誤: まるで**漬**油で煮詰めたように、→ 正: まるで**醤油**で煮詰めたように、

【用例】誤: **漬**油で煮しめたような手ぬぐい。→ 正: **醤油**で煮しめたような手ぬぐい。

◆しょくしがうごく【食指が動く】

【用例】誤: 砂を**筋**(か)んでも文学をやると意気込んでいた。→ 正: 砂を**嚙**(か)んでも文学をやると意気込んでいた。

◆じょちょう【助長】

【用例】誤:〔森**猊**外『渋江抽斎』〕→ 正:〔森**鷗**外『渋江抽斎』〕

◆しらかわよふね【白河夜船】

【注釈】誤: 京見物をしてきたと**鬪**(うそ)をついた人が、→ 正: 京見物をしてきたと**嘘**(うそ)をついた人が、

【注釈】誤:「夜に船で通ったので知らない」と答えたため**鬪**がばれてしまったという話から。→ 正:「夜に船で通ったので知らない」と答えたため**嘘**がばれてしまったという話から。

◆しりがわれる【尻が割れる】

【用例】誤: すぐに尻が割れるような**鬪**(うそ)を、→ 正: すぐに尻が割れるような**嘘**(うそ)を、

◆しんじゅうよりまんじゅう【心中より饅頭】

【類句】誤: 見栄(みえ)張るより**茲**張(ほおば)れ→ 正: 見栄(みえ)張るより**頬**張(ほおば)れ

◆すいせいむし【醉生夢死】

【用例】誤:〔森**猊**外『妄想』〕→ 正:〔森**鷗**外『妄想』〕

◆すいもあまいもかみわける【酸いも甘いも**噛**み分ける】

【見出し語】誤: すいもあまいもかみわける【酸いも甘いも**筋**み分ける】→ 正: すいもあまいもかみわける【酸いも甘いも**噛**み分ける】

【用例】誤: こういうものを書く人は皆世の中の酸いも甘いも**筋**み分けた中年以上の通人だとばかり漠然と思って、→ 正: こういうものを書く人は皆世の中の酸いも甘いも**噛**み分けた中年以上の通人だとばかり漠然と思って、

◆すきにはみをやつす【好きには身をやつす】

【本文】誤: **醜**(や)せるほどの苦労もいとわれないものだという。→ 正: **瘦**(や)せるほどの苦労もいとわれないものだという。

◆ずきんとみせてほおかむり【頭巾と見せて**頬**冠り】

【見出し語】誤: ずきんとみせてほおかむり【頭巾と見せて**茲**冠り】→ 正: ずきんとみせてほおかむり【頭巾と見せて**頬**冠り】

【注釈】誤: はた目には**茲**かぶりとしか見えないという意から。→ 正: はた目には**頬**かぶりとしか見えないという意から。

◆すっぱいぶどう【酸っぱい葡萄】

【本文】誤: **醜**(や)せがまんのたとえ。→ 正: **瘦**(や)せがまんのたとえ。

◆すんをまげてしゃくをのぶ【寸を曲げて尺を伸ぶ】

【注釈】誤: なお「曲げて」は本来「**沾**げて」と書く。→ 正: なお「曲げて」は本来「**誣**げて」と書く。

◆せいこくをいる【正鵠を射る】

【用例】誤: 〔森**貌**外『寒山拾得』〕→ 正: 〔森**鷗**外『寒山拾得』〕

◆せいだくあわせのむ【清濁併せ**吞**む】

【見出し語】誤: せいだくあわせのむ【清濁併せ**潤**む】→ 正: せいだくあわせのむ【清濁併せ**吞**む】

【注釈】誤: 清流も濁流もいっしょに**潤**み込んでしまう意で、→ 正: 清流も濁流もいっしょに**吞**み込んでしまう意で、

【用例】誤: 清濁併せ**潤**む大腹中でもなかった。→ 正: 清濁併せ**吞**む大腹中でもなかった。

◆せいちゅう【掣肘】

【用例】誤: 〔森**貌**外『洪江抽斎』〕→ 正: 〔森**鷗**外『洪江抽斎』〕

◆せいるい、ともにくだる【声涙、俱に下る】

【見出し語】誤: 鬥に下る】→ 正: 俱に下る】

◆せっかくのくつするはのびんがため【尺蠖の屈するは伸びんがため】

【出典】誤: 『易経(えききょう)』壓辞(けいじ)・下→ 正: 『易経(えききょう)』繫辞(けいじ)・下

◆せつぷのうたがい【窃鉄の疑い】

【見出し語】誤: せつぷのうたがい【窃乘の疑い】→ 正: せつぷのうたがい【窃鉄の疑い】

【注釈】誤: 「窃乘」は斧(おの)をこっそり盗むこと。→ 正: 「窃鉄」は斧(おの)をこっそり盗むこと。

◆せつをおる【節を折る】

【用例】誤: [森猊外『洪江抽斎』]→ 正: [森鷗外『洪江抽斎』]

◆せんきんのこはざしてどうにすいせず【千金の子は坐して堂に垂せず】

【出典】誤: 『史記(しき)』袁領(えんおう)→ 正: 『史記(しき)』袁盎(えんおう)

◆せんだんはふたばよりかんばし【梅檀は双葉より芳し】

【類句】誤: 蛇(じゃ)は寸にして人を闘(の)む→ 正: 蛇(じゃ)は寸にして人を蚕(の)む

◆せんべんをつける【先鞭を着ける】

【出典】誤: 『晋書(しんじょ)』劉蕡(りゅうこん)→ 正: 『晋書(しんじょ)』劉琨(りゅうこん)

◆せんみつ【千三つ】

【本文】誤: ①鬪(うそ)→ 正: ①嘘(うそ)

【本文】誤: 鬪つき。→ 正: 嘘つき。

◆そういいまだいえず【創痕未だ瘳えず】

【見出し語】誤: そういいまだいえず【創痕未だ奎えず】→ 正: そういいまだいえず【創痕未だ瘳えず】

◆そうかのいぬ【喪家の狗】

【本文】誤: 瘦(や)せ衰えて→ 正: 瘦(や)せ衰えて

【注釈】誤: 瘦せ衰えている喪中の家の犬の意で、→ 正: 瘦せ衰えている喪中の家の犬の意で、

◆そうしん、ひとをころす【曾参、人を殺す】

【本文】誤: たとえ鬪(うそ)でも→ 正: たとえ嘘(うそ)でも

◆そうりんいっし【巢林一枝】

【出典】誤:『宋史(そうし)』李檀(りこう)→ 正:『宋史(そうし)』李沆(りこう)

◆そくしゅう【束脩】

【用例】誤:〔森貌外『洪江抽斎』〕→ 正:〔森鷗外『洪江抽斎』〕

◆そんなしてはじかく【損して恥搔く】

【見出し語】誤: そんなしてはじかく【損して恥惜く】→ 正: そんなしてはじかく【損して恥搔く】

【本文】誤: 損をしたうえさらに恥まで惜いて→ 正: 損をしたうえさらに恥まで搔いて

◆たいいんはいちにかくる【大隠は市に隠る】

【出典】誤: 王康岬(おうこうきよ)「反招隠(はんしょういん)」→ 正: 王康壚(おうこうきよ)「反招隠(はんしょういん)」

◆たいかいをみみかきではかる【大海を耳搔きで測る】

【見出し語】誤: たいかいをみみかきではかる【大海を耳惜きで測る】→ 正: たいかいをみみかきではかる【大海を耳搔きで測る】

【注釈】誤: 海の水の量を耳惜きで汲んで測る意から。→ 正: 海の水の量を耳搔きで汲んで測る意から。

◆たいかのたおれんとするはいちぼくのささうるところにあらず【大廈の倒れんとするは一木の支うる所に非ず】

【注釈】誤: 「倒れん」は本来「莖れん」と書く。→ 正: 「倒れん」は本来「顛れん」と書く。

◆だいはしょうをかねる【大は小を兼ねる】

【反句】誤: 杓子(しゃくし)は耳惜(みみか)きにならず→ 正: 杓子(しゃくし)は耳搔(みみか)きにならず

◆だいらさまもくわねばたたぬ【内裏様も食わねば立たぬ】

【類句】誤: 上韻(じょうろう)も三食→ 正: 上臙(じょうろう)も三食

◆たつじんはたいかんす【達人は大観す】

【出典】誤: 賈誼(かぎ)「譏鳥賦(ふくちょうのふ)」→ 正: 賈誼(かぎ)「鵬鳥賦(ふくちょうのふ)」

◆だてのうすぎ【伊達の薄着】

【本文】誤: 寒くても魄(や)せがまんして薄着でいること。→ 正: 寒くても瘦(や)せがまんして薄着でいること。

◆たとえにうそなしぼうずにけなし【譬えに嘘なし坊主に毛なし】

【見出し語】誤: たとえにうそなしぼうずにけなし【譬えに鬪なし坊主に毛なし】→ 正: たとえにうそなしぼうずにけなし【譬えに嘘なし坊主に毛なし】

【本文】誤: いずれも真理を含んでいて鬪はないということ。→ 正: いずれも真理を含んでいて嘘はないということ。

◆たなごころをさす【掌を指す】

【出典】誤: 『論語(ろんご)』八飲(はちいつ)→ 正: 『論語(ろんご)』八佞(はちいつ)

◆たびのはじはかきすて【旅の恥は掻き捨て】

【見出し語】誤: たびのはじはかきすて【旅の恥は惜き捨て】→ 正: たびのはじはかきすて【旅の恥は掻き捨て】

◆だんきんのまじわり【断金の交わり】

【出典】誤: 『易経(えききょう)』壓辞(けいじ)・上→ 正: 『易経(えききょう)』繫辞(けいじ)・上

◆だんまつま【断末魔】

【出典】誤: 『鬥舎論(ぐしゃろん)』→ 正: 『俱舎論(ぐしゃろん)』

◆ちいさくともはりはのまれぬ【小さくとも針は吞まれぬ】

【見出し語】誤: ちいさくともはりはのまれぬ【小さくとも針は鬪まれぬ】→ 正: ちいさくともはりはのまれぬ【小さくとも針は吞まれぬ】

【注釈】誤: 「針は小さくとも鬪まれぬ」ともいう。→ 正: 「針は小さくとも吞まれぬ」ともいう。

◆ちくりんのしちけん【竹林の七賢】

【本文】誤: 阮籍(げんせき)・子康(けいこう)・山濤(さんとう)・向秀(しょうしゅう)・阮咸(げんかん)・劉伶(りゅうらい)・王戎(おうじゅう)の七人。→ 正: 阮籍(げんせき)・嵇康(けいこう)・山濤(さんとう)・向秀(しょうしゅう)・阮咸(げんかん)・劉伶(りゅうらい)・王戎(おうじゅう)の七人。

【出典】誤: 『晋書(しんじょ)』子康(けいこう)→ 正: 『晋書(しんじょ)』嵇康(けいこう)

◆ちちはこのためにかくし、こはちちのためにかくす【父は子の為に隠し、子は父の為に隠す】

【本文】誤: そのために鬪(うそ)をついても、→ 正: そのために嘘(うそ)をついても、

◆ちにてらんをわすれず【治に居て乱を忘れず】

【出典】誤: 『易経(えききょう)』歴辞(けいじ)・下→ 正: 『易経(えききょう)』繫辞(けいじ)・下

◆ちゅうしんはにくんにつかえず【忠臣は二君に仕えず】

【英例】誤: The person that serves two masters has to lie to one of them. (二人の主人に仕える者はその一人に鬪(うそ)をつくことになる)→ 正: The person that serves two masters has to lie to one of them. (二人の主人に仕える者はその一人に嘘(うそ)をつくことになる)

◆ちょうちんにつりがね【提灯に釣り鐘】

【類句】誤: 瓢員(ひょうたん)に釣り鐘→ 正: 瓢篋(ひょうたん)に釣り鐘

◆つきうすでちゃづけ【搗き臼で茶漬け】

【類句】誤: 杓子(しゃくし)は耳惜(みにか)きにならず/長持ち枕にならず→ 正: 杓子(しゃくし)は耳搔(みにか)きにならず/長持ち枕にならず

◆つきとすっぽん【月と鼈】

【本文】誤: 瓢員(ひょうたん)に釣り鐘→ 正: 瓢篋(ひょうたん)に釣り鐘

◆つちぼとけのみずあそび【土仏の水遊び】

【英例】誤: The person that has a head of wax must not walk in the sun. (掬頭(ろうあたま)の者は日向(ひなた)を歩くべからず)→ 正: The person that has a head of wax must not walk in the sun. (蠟頭(ろうあたま)の者は日向(ひなた)を歩くべからず)

◆つなぎうまにむちをうつ【繫ぎ馬に鞭を打つ】

【見出し語】誤: つなぎうまにむちをうつ【歴ぎ馬に鞭を打つ】→ 正: つなぎうまにむちをうつ【繫ぎ馬に鞭を打つ】

◆つめでひろってみでこぼす【爪で拾って箕でこぼす】

【類句】誤: 耳惜きで集めて熊手で惜き出す→ 正: 耳搔きで集めて熊手で搔き出す

◆つめにひをとす【爪に火を点す】

【英例】誤: He would skin a louse and send the hide to market. (虱(しらみ)の皮を~~開~~いで、→ 正: He would skin a louse and send the hide to market. (虱(しらみ)の皮を~~剥~~いで、

◆つゆのいのち【露の命】

【注釈】誤: 露命(ろめい)を~~壓~~(つなぐ)→ 正: 露命(ろめい)を~~繫~~(つなぐ)

◆つらのかわをはぐ【面の皮を剥ぐ】

【見出し語】誤: つらのかわをはぐ【面の皮を~~開~~ぐ】→ 正: つらのかわをはぐ【面の皮を~~剥~~ぐ】

【本文】誤: ⇒面皮(めんび)を~~開~~(は)ぐ→ 正: ⇒面皮(めんび)を~~剥~~(は)ぐ

◆てきはほんのうじにあり【敵は本能寺にあり】

【英例】誤: He that wipes the child's nose kisses the mother's cheek. (子供の鼻をふいてやる者はその母親の~~茲~~(ほお)にキスする)→ 正: He that wipes the child's nose kisses the mother's cheek. (子供の鼻をふいてやる者はその母親の~~頬~~(ほお)にキスする)

◆てきもさるものひっかくもの【敵もさるもの引つ掻くもの】

【見出し語】誤: てきもさるものひっかくもの【敵もさるもの引つ~~惜~~くもの】→ 正: てきもさるものひっかくもの【敵もさるもの引つ~~掻~~くもの】

【注釈】誤: その「さる」を引つ~~惜~~く猿(さる)に掛けたことば。→ 正: その「さる」を引つ~~掻~~く猿(さる)に掛けたことば。

【用例】誤: 敵もさるもの引つ~~惜~~くもので、→ 正: 敵もさるもの引つ~~掻~~くもので、

◆てんだいのふで【椽大の筆】

【出典】誤: 『晋書(しんじょ)』王~~又~~(おうじゅん)→ 正: 『晋書(しんじょ)』王~~珣~~(おうじゅん)

◆てんのあたうるをとらざればかえってそのとがめをうく【天の与うるを取らざれば反ってその咎めを受く】

【注釈】誤: 遊説家(ゆうぜいか)の~~懺~~通(かいつう)が漢の重臣の韓信(かんしん)に、→ 正: 遊説家(ゆうぜいか)の~~蒯~~通(かいつう)が漢の重臣の韓信(かんしん)に、

◆でんぷのこう【田父の功】

【注釈】誤: 魏(ぎ)を討とうとした斉(せい)王に対して淳于~~蛭~~(じゅんうこん)が「この世で一番足が速いという犬が、→ 正: 魏(ぎ)を討とうとした斉(せい)王に対して淳于~~髡~~(じゅんうこん)が「この世で一番足が速いという犬が、

◆どうじつのろんにあらず【同日の論にあらず】

【出典】誤:『史記(しき)』游鯨(ゆうきょう)→ 正:『史記(しき)』游俠(ゆうきょう)

◆とうろうのおの【螻蛄の斧】

【類句】誤: 鯨(ごまめ)の齒軋(はぎしり)→ 正: 鯨(ごまめ)の齒軋(はぎしり)

【英例】誤: The fly that bites a tortoise breaks its beak. (亀を筋(か)む蠅(はえ)はその口を傷める)→ 正:
The fly that bites a tortoise breaks its beak. (亀を嚙(か)む蠅(はえ)はその口を傷める)

◆どじょうのじだんだ【泥鰌の地団駄】

【類句】誤: 鯨(ごまめ)の齒軋(はぎしり)→ 正: 鯨(ごまめ)の齒軋(はぎしり)

◆となりのじんだみそ【隣の糶糶味噌】

【見出し語】誤: となりのじんだみそ【隣の糶哺味噌】→ 正: となりのじんだみそ【隣の糶糶味噌】

【注釈】誤: 「糶哺味噌」は糠味噌(ぬかみそ)のこと。→ 正: 「糶糶味噌」は糠味噌(ぬかみそ)のこと。

◆となりのはなはあかい【隣の花は赤い】

【類句】誤: 隣の糶哺味噌(じんだみそ)→ 正: 隣の糶糶味噌(じんだみそ)

◆とののいぬにはくわれぞん【殿の犬には食われ損】

【注釈】誤: 殿様の飼っている犬には筋みつかれても文句が言えず、→ 正: 殿様の飼っている犬には
嚙みつかれても文句が言えず、

◆ともにてんをいただかず【俱に天を戴かず】

【見出し語】誤: ともにてんをいただかず【鬥に天を戴かず】→ 正: ともにてんをいただかず【俱に天を
戴かず】

【本文】誤: ⇒不鬥戴天(ふぐたいてん)→ 正: ⇒不俱戴天(ふぐたいてん)

◆とらをやしないでうれいをのこす【虎を養いて患いを遺す】

【類句】誤: 虎の子を飼う/生殺(なまごろ)しの蛇(へび)に筋(か)まれる→ 正: 虎の子を飼う/生殺(なま
ごろ)しの蛇(へび)に嚙(か)まれる

◆とりきゆうすればすなわちつえばむ【鳥窮すれば則ち啄む】

【類句】誤: 猫を筋(か)む→ 正: 猫を嚙(か)む

◆どんしゅうのうお【吞舟の魚】

【見出し語】誤: どんしゅうのうお【**罽**舟の魚】→ 正: どんしゅうのうお【**吞**舟の魚】

【注釈】誤: 舟を丸**罽**(まるの)みするほどの大きな魚の意から。→ 正: 舟を丸**吞**(まるの)みするほどの大きな魚の意から。

【注釈】誤: **罽**舟の魚を漏らす→ 正: **吞**舟の魚を漏らす

【用例】誤: 雑魚を数えて**罽**舟の魚を取りのがすのである。→ 正: 雑魚を数えて**吞**舟の魚を取りのがすのである。

◆どんしゅうのうおもみずをうしなえばすなわちろうぎにせいせらる【吞舟の魚も水を失えば則ち螻蟻に制せらる】

【見出し語】誤: どんしゅうのうおもみずをうしなえばすなわちろうぎにせいせらる【**罽**舟の魚も水を失えば則ち螻蟻に制せらる】→ 正: どんしゅうのうおもみずをうしなえばすなわちろうぎにせいせらる【**吞**舟の魚も水を失えば則ち螻蟻に制せらる】

【注釈】誤: 船を**罽**み込んでしまうような大魚でも、→ 正: 船を**吞**み込んでしまうような大魚でも、

◆ながいものにはまかれろ【長い物には巻かれろ】

【類句】誤: 大きな物には**罽**(の)まれよ→ 正: 大きな物には**吞**(の)まれよ

◆なかぬほたるがみをこがす【鳴かぬ螢が身を焦がす】

【注釈】誤: 「鳴く**烏**(せみ)よりも鳴かぬ螢が身を焦がす」ともいう。→ 正: 「鳴く**蟬**(せみ)よりも鳴かぬ螢が身を焦がす」ともいう。

◆なくせみよりもなかぬほたるがみをこがす【鳴く蟬よりも鳴かぬ螢が身を焦がす】

【見出し語】誤: なくせみよりもなかぬほたるがみをこがす【鳴く**烏**よりも鳴かぬ螢が身を焦がす】→ 正: なくせみよりもなかぬほたるがみをこがす【鳴く**蟬**よりも鳴かぬ螢が身を焦がす】

◆なくねこはねずみをとらぬ【鳴く猫は鼠を捕らぬ】

【類句】誤: 吠(ほ)える犬は**筋**(か)みつかぬ→ 正: 吠(ほ)える犬は**嚙**(か)みつかぬ

◆なこうどぐちははんぶんいきけ【仲人口は半分に聞け】

【類句】誤: 仲人七**罽**(ななうそ)→ 正: 仲人七**嘘**(ななうそ)

◆なこうどななうそ【仲人七嘘】

【見出し語】誤: なこうどななうそ【仲人七**罽**】→ 正: なこうどななうそ【仲人七**嘘**】

【本文】誤: ときには**罽**をまじえることも多い。→ 正: ときには**嘘**をまじえることも多い。

◆なんかのゆめ【南柯の夢】

【注釈】誤: 中国唐の淳于**蝶**(じゅんうふん)という人が、→ 正: 中国唐の淳于**焚**(じゅんうふん)という人が、

◆なんざんのじゅ【南山の寿】

【注釈】誤: 中国古代の祈**偃**の歌に、→ 正: 中国古代の祈**禱**の歌に、

◆にがむしをかみつぶしたよう【苦虫を**噛**み潰したよう】

【見出し語】誤: にがむしをかみつぶしたよう【苦虫を**筋**み潰したよう】→ 正: にがむしをかみつぶしたよう【苦虫を**噛**み潰したよう】

【注釈】誤: 「苦虫」は**筋**んだらさぞかし苦いだろうと想像される虫のこと。→ 正: 「苦虫」は**噛**んだらさぞかし苦いだろうと想像される虫のこと。

【用例】誤: [森**貌**外『青年』]→ 正: [森**鷗**外『青年』]

◆にしきのみはた【錦の御旗】

【本文】誤: 赤い錦の地に日と月を金銀で刺**堪**(ししゅう)した旗。→ 正: 赤い錦の地に日と月を金銀で刺**繡**(ししゅう)した旗。

◆にしきをきてひるゆく【錦を衣て昼行く】

【注釈】誤: 「**堪**(しゅう)を衣て昼行く」ともいう。→ 正: 「**繡**(しゅう)を衣て昼行く」ともいう。

◆にべもない【にべもない】

【注釈】誤: 「にべ」は「**揚**膠」と書き、→ 正: 「にべ」は「**鮠**膠」と書き、

【注釈】誤: **揚**(にべ)という海魚のうきぶくろから作る、→ 正: **鮠**(にべ)という海魚のうきぶくろから作る、

◆にまいじたをつかう【二枚舌を使う】

【本文】誤: **鬪**(うそ)をつくことのとえ。→ 正: **嘘**(うそ)をつくことのとえ。

◆にゅうぼくどう【入木道】

【出典】誤: 張懐**厚**(ちょうかいかん)「書断」→ 正: 張懐**瓘**(ちょうかいかん)「書断」

◆ぬすっとたけだけしい【盗人猛ましい】

【英例】誤: He bites the ear, yet seems to cry for fear. (相手の耳を**筋**(か)んでおきながら、→ 正: He bites the ear, yet seems to cry for fear. (相手の耳を**噛**(か)んでおきながら、

◆ぬりばしでいもをもる【塗り箸で芋を盛る】

【類句】誤: 塗り箸で鰻(うなぎ)をはさむ/塗り箸で素~~跟~~(そうめん)→ 正: 塗り箸で鰻(うなぎ)をはさむ/塗り箸で素~~麵~~(そうめん)

◆ぬれてであわ【濡れ手で粟】

【注釈】誤: 「濡れ手で粟の~~拙~~(つか)み取り」ともいう。→ 正: 「濡れ手で粟の~~搦~~(つか)み取り」ともいう。

◆ねくびをかく【寝首を搔く】

【見出し語】誤: ねくびをかく【寝首を~~惜~~く】→ 正: ねくびをかく【寝首を~~搔~~く】

【用例】誤: やり手の理事に寝首を~~惜~~かれて、→ 正: やり手の理事に寝首を~~搔~~かれて、

◆ねこがこえればかつおぶしがやせる【猫が肥えれば鯉節が瘦せる】

【見出し語】誤: ねこがこえればかつおぶしがやせる【猫が肥えれば鯉節が~~魄~~せる】→ 正: ねこがこえればかつおぶしがやせる【猫が肥えれば鯉節が~~瘦~~せる】

【注釈】誤: 鯉節は~~魄~~せる意から。→ 正: 鯉節は~~瘦~~せる意から。

◆ねずみきゆうしてねこをかみ、ひとまずしうしてぬすみす【鼠窮して猫を噛み、人貧しうして盗す】

【見出し語】誤: ひとまずしうしてぬすみす【鼠窮して猫を~~筋~~み、→ 正: ひとまずしうしてぬすみす【鼠窮して猫を~~噛~~み、

【本文】誤: 鼠が追いつめられて進退きわまると猫に~~筋~~みつくように→ 正: 鼠が追いつめられて進退きわまると猫に~~噛~~みつくように

◆のうじおわる【能事畢る】

【出典】誤: 『易経(えききょう)』~~壓~~辞(けいじ)・上→ 正: 『易経(えききょう)』~~繫~~辞(けいじ)・上

◆のうちゅうのきり【囊中の錐】

【見出し語】誤: のうちゅうのきり【~~苦~~中の錐】→ 正: のうちゅうのきり【~~囊~~中の錐】

【本文】誤: 錐(きり)の~~苦~~中(のうちゅう)に処(お)るが如(ごと)し→ 正: 錐(きり)の~~囊~~中(のうちゅう)に処(お)るが如(ごと)し

◆のうちゅうのものをさぐるがごとし【囊中の物を探るが如し】

【見出し語】誤: のうちゅうのものをさぐるがごとし【~~苦~~中の物を探るが如し】→ 正: のうちゅうのものをさぐるがごとし【~~囊~~中の物を探るが如し】

【注釈】誤: 「~~苦~~中」は袋の中。→ 正: 「~~囊~~中」は袋の中。

【出典】誤: 『新五代史(しんごだいし)』李~~復~~(りいく)→ 正: 『新五代史(しんごだいし)』李~~煜~~(りいく)

◆はいたつばはのめぬ【吐いた唾は呑めぬ】

【見出し語】誤: はいたつばはのめぬ【吐いた唾は開めぬ】→ 正: はいたつばはのめぬ【吐いた唾は呑めぬ】

◆はいちゅうのだえい【杯中の蛇影】

【類句】誤: 窃乘(せつぷ)の疑い→ 正: 窃鉢(せつぷ)の疑い

◆はいふきからじゃがでる【灰吹きから蛇が出る】

【類句】誤: 瓢眞(ひょうたん)から駒(こま)が出る→ 正: 瓢篋(ひょうたん)から駒(こま)が出る

◆ばきやくをあらわす【馬脚を露す】

【類句】誤: 化けの皮が開(は)がれる→ 正: 化けの皮が剝(は)がれる

◆ばけのかわがはがれる【化けの皮が剝がれる】

【見出し語】誤: ばけのかわがはがれる【化けの皮が開がれる】→ 正: ばけのかわがはがれる【化けの皮が剝がれる】

【用例】誤: ついに化けの皮が開がれてしまった。→ 正: ついに化けの皮が剝がれてしまった。

◆はじとあたまはかきしだい【恥と頭は搔き次第】

【見出し語】誤: はじとあたまはかきしだい【恥と頭は惜き次第】→ 正: はじとあたまはかきしだい【恥と頭は搔き次第】

【注釈】誤: 頭を惜きたいだけ惜くように、→ 正: 頭を搔きたいだけ搔くように、

【注釈】誤: 恥の惜き放題をまるで気にしないことから。→ 正: 恥の搔き放題をまるで気にしないことから。

◆はしにめはなをつけてもおとこはおとこ【箸に目鼻をつけても男は男】

【本文】誤: 瘦(や)せても枯れても男は男だから→ 正: 瘦(や)せても枯れても男は男だから

【注釈】誤: 「箸に目鼻」は瘦せた人のたとえ。→ 正: 「箸に目鼻」は瘦せた人のたとえ。

◆はじをしらねばはじかかず【恥を知らねば恥搔かず】

【見出し語】誤: はじをしらねばはじかかず【恥を知らねば恥惜かず】→ 正: はじをしらねばはじかかず

【恥を知らねば恥搔かず】

◆はたけすいれん【畑水練】

【用例】誤: 自分が一世一代の飛躍を試みんべき時だ」と畑水練の氣撫(きえん)をよく挙げたもんだ。→

正: 自分が一世一代の飛躍を試みんべき時だ」と畑水練の氣焔(きえん)をよく挙げたもんだ。

◆はなしはんぶん【話半分】

【本文】誤: 誇張や鬪(うそ)が多いから、→ 正: 誇張や嘘(うそ)が多いから、

【英例】誤: Gossiping and lying go hand in hand. (うわさと鬪は手に手を取って)→ 正: Gossiping and lying go hand in hand. (うわさと嘘は手に手を取って)

◆はねるうまはしんでもはねる【跳ねる馬は死んでも跳ねる】

【類句】誤: 筋(か)む馬はしまいまで筋む→ 正: 噛(か)む馬はしまいまで噛む

◆はりはのまれず【針は吞まれず】

【見出し語】誤: はりはのまれず【針は鬪まれず】→ 正: はりはのまれず【針は吞まれず】

【本文】誤: ⇒細(ほそ)くても針(はり)は鬪(の)めぬ→ 正: ⇒細(ほそ)くても針(はり)は吞(の)めぬ

◆ばんこんさくせつ【盤根錯節】

【出典】誤: 『後漢書(ごかんじょ)』虞氛(ぐく)→ 正: 『後漢書(ごかんじょ)』虞詡(ぐく)

◆ひざまくらにほおづえ【膝枕に頬杖】

【見出し語】誤: ひざまくらにほおづえ【膝枕に茲杖】→ 正: ひざまくらにほおづえ【膝枕に頬杖】

【本文】誤: することもなくぼんやりと茲杖をついているのでは大違いだということ。→ 正: することもなくぼんやりと頬杖をついているのでは大違いだということ。

◆ひとくちものにほおをやく【一口物に頬を焼く】

【見出し語】誤: ひとくちものにほおをやく【一口物に茲を焼く】→ 正: ひとくちものにほおをやく【一口物に頬を焼く】

【類句】誤: 一口物の茲破り→ 正: 一口物の頬破り

◆ひとくらいうまにもあいぐち【人食らい馬にも合い口】

【本文】誤: 人に筋(か)みつく荒馬でも→ 正: 人に噛(か)みつく荒馬でも

【本文】誤: 「人筋み馬にも合い口」ともいう。→ 正: 「人噛み馬にも合い口」ともいう。

◆ひとたびなけばひとをおどろかす【一度鳴けば人を驚かす】

【注釈】誤: 淳于**蜩**(じゅんうこん)が「この国には大きな鳥がいて、→ 正: 淳于**髡**(じゅんうこん)が「この国には大きな鳥がいて、

【出典】誤: 『史記(しき)』滑稽(こっけい)・淳于**蜩**(じゅんうこん)→ 正: 『史記(しき)』滑稽(こっけい)・淳于**髡**(じゅんうこん)

◆ひととびょうぶはすぐにはたたぬ【人と屏風は直ぐには立たぬ】

【見出し語】誤: ひととびょうぶはすぐにはたたぬ【人と**鬻**風は直ぐには立たぬ】→ 正: ひととびょうぶはすぐにはたたぬ【人と**屏**風は直ぐには立たぬ】

【本文】誤: 商人(あきんど)と**鬻**風は直ぐには立たぬ→ 正: 商人(あきんど)と**屏**風は直ぐには立たぬ

◆ひとにほどこしてはつつしみておもうことなかれ【人に施しては慎みて念うこと勿れ】

【出典】誤: 崔**明**(さいえん)「座右銘(ざゆうのめい)」→ 正: 崔**瑗**(さいえん)「座右銘(ざゆうのめい)」

◆ひとのうそはわがうそ【人の嘘は我が嘘】

【見出し語】誤: ひとのうそはわがうそ【人の**鬪**は我が**鬪**】→ 正: ひとのうそはわがうそ【人の**嘘**は我が**嘘**】

【本文】誤: もしそれが**鬪**だったとき、→ 正: もしそれが**嘘**だったとき、

【本文】誤: 自分が**鬪**をついたことになる。→ 正: 自分が**嘘**をついたことになる。

◆ひとのそらごとはわがそらごと【人の空言は我が空言】

【本文】誤: 人(ひと)の**鬪**(うそ)は我(わ)が**鬪**(うそ)→ 正: 人(ひと)の**嘘**(うそ)は我(わ)が**嘘**(うそ)

◆ひとのたんをいうなかれ、おのれのちょうをとくなかれ【人の短を道う無かれ、己の長を説く無かれ】

【出典】誤: 崔**明**(さいえん)『座右銘(ざゆうのめい)』→ 正: 崔**瑗**(さいえん)『座右銘(ざゆうのめい)』

◆ひとまずしければちみじかし【人貧しければ智短し】

【類句】誤: 馬**瘦**(や)せて毛長し→ 正: 馬**瘦**(や)せて毛長し

◆ひばはべんすいをおそれず【疲馬は鞭**垂**を畏れず】

【見出し語】誤: ひばはべんすいをおそれず【疲馬は鞭**匱**を畏れず】→ 正: ひばはべんすいをおそれず【疲馬は鞭**垂**を畏れず】

【注釈】誤: 「鞭**匱**」は馬を打つむち。→ 正: 「鞭**垂**」は馬を打つむち。

【類句】誤: **瘦**(や)せ馬鞭(むち)を驚かず→ 正: **瘦**(や)せ馬鞭(むち)を驚かず

◆ひものうお【比目の魚】

【出典】誤: ①『戦国策』燕策(えんさく)・王中(おうかい)②『管子(かんし)』封禪(ほうぜん)→ 正: ①『戦国策』燕策(えんさく)・王噲(おうかい)②『管子(かんし)』封禪(ほうぜん)

◆ひょうたんからこまがでる【瓢箪から駒が出る】

【見出し語】誤: ひょうたんからこまがでる【瓢員から駒が出る】→ 正: ひょうたんからこまがでる【瓢箪から駒が出る】

【注釈】誤: 瓢員から出るはずのないほんものの馬が飛び出す意から。→ 正: 瓢箪から出るはずのないほんものの馬が飛び出す意から。

【注釈】誤: 「瓢員から駒」ともいう。→ 正: 「瓢箪から駒」ともいう。

◆ひょうたんからこまもいはず【瓢箪から駒も出せず】

【見出し語】誤: ひょうたんからこまもいはず【瓢員から駒も出せず】→ 正: ひょうたんからこまもいはず【瓢箪から駒も出せず】

【注釈】誤: 「瓢員から駒が出る」を受けてということば。→ 正: 「瓢箪から駒が出る」を受けてということば。

◆ひょうたんでなまずをおさえる【瓢箪で鯰を押さえる】

【見出し語】誤: ひょうたんでなまずをおさえる【瓢員で鯰を押さえる】→ 正: ひょうたんでなまずをおさえる【瓢箪で鯰を押さえる】

【注釈】誤: 丸くてつるつるした瓢員で押さえようとする意から。→ 正: 丸くてつるつるした瓢箪で押さえようとする意から。

【注釈】誤: 略して「瓢員鯰」ともいう。→ 正: 略して「瓢箪鯰」ともいう。

◆ひょうたんにつりがね【瓢箪に釣り鐘】

【見出し語】誤: ひょうたんにつりがね【瓢員に釣り鐘】→ 正: ひょうたんにつりがね【瓢箪に釣り鐘】

【注釈】誤: 瓢員と釣り鐘とは、→ 正: 瓢箪と釣り鐘とは、

◆ひょうたんのかわながれ【瓢箪の川流れ】

【見出し語】誤: ひょうたんのかわながれ【瓢員の川流れ】→ 正: ひょうたんのかわながれ【瓢箪の川流れ】

【本文】誤: 瓢員がぶかぶかと浮いて川面を流れていくように→ 正: 瓢箪がぶかぶかと浮いて川面を流れていくように

◆びょうぶとあきんどはすぐにはたたぬ【**屏**風と商人は直ぐには立たぬ】

【見出し語】誤: びょうぶとあきんどはすぐにはたたぬ【**響**風と商人は直ぐには立たぬ】→ 正: びょうぶとあきんどはすぐにはたたぬ【**屏**風と商人は直ぐには立たぬ】

【本文】誤: ⇒商人(あきんど)と**響**風(びょうぶ)は直(す)ぐには立(た)たぬ→ 正: ⇒商人(あきんど)と**屏**風(びょうぶ)は直(す)ぐには立(た)たぬ

◆ふぐたいてん【不**俱**戴天】

【見出し語】誤: ふぐたいてん【不**鬥**戴天】→ 正: ふぐたいてん【不**俱**戴天】

【注釈】誤: 「**鬥**(とも)に天を戴(いた)だかず」ともいう。→ 正: 「**俱**(とも)に天を戴(いた)だかず」ともいう。

【英例】誤: one's mortal enemy (不**鬥**戴天の敵)→ 正: one's mortal enemy (不**俱**戴天の敵)

◆ぶしはせんりやく、ぼうずはほうべん【武士は戦**略**、坊主は方**便**】

【本文】誤: **闘**(うそ)のことを武士は戦**略**といい→ 正: **嘘**(うそ)のことを武士は戦**略**といい

【本文】誤: 同じ**闘**でも人によって言い方が違ってくるといふこと。→ 正: 同じ**嘘**でも人によって言い方が違ってくるといふこと。

【本文】誤: 人間が**闘**つきであることを皮肉っていう。→ 正: 人間が**嘘**つきであることを皮肉っていう。

◆ふねにこりてこしをいむ【舟に懲りて輿を忌む】

【類句】誤: 蛇(へび)に**筋**(か)まれて朽(く)ち繩に怖(お)じる→ 正: 蛇(へび)に**噓**(か)まれて朽(く)ち繩に怖(お)じる

◆ふんどのしょうはぬるべからず【糞土の牆は**朽**るべからず】

【見出し語】誤: ふんどのしょうはぬるべからず【糞土の牆は**濁**るべからず】→ 正: ふんどのしょうはぬるべからず【糞土の牆は**朽**るべからず】

◆へびがかえるをのんだよう【蛇が蛙を**呑**んだよう】

【見出し語】誤: へびがかえるをのんだよう【蛇が蛙を**圃**んだよう】→ 正: へびがかえるをのんだよう

【蛇が蛙を**呑**んだよう】

◆へびがかをのんだよう【蛇が蚊を**呑**んだよう】

【見出し語】誤: へびがかをのんだよう【蛇が蚊を**圃**んだよう】→ 正: へびがかをのんだよう【蛇が蚊を**呑**んだよう】

◆へびにかまれてくちなわにおじる【蛇に噛まれて朽ち縄に怖じる】

【見出し語】誤: へびにかまれてくちなわにおじる【蛇に筋まれて朽ち縄に怖じる】→ 正: へびにかまれてくちなわにおじる【蛇に噛まれて朽ち縄に怖じる】

【注釈】誤: 蛇に筋まれてからは、→ 正: 蛇に噛まれてからは、

◆ほえるいぬはめったにかみつけない【吠える犬はめったに噛みつけない】

【見出し語】誤: ほえるいぬはめったにかみつけない【吠える犬はめったに筋みつけない】→ 正: ほえるいぬはめったにかみつけない【吠える犬はめったに噛みつけない】

◆ほおをかお【頬を顔】

【見出し語】誤: ほおをかお【茲を顔】→ 正: ほおをかお【頬を顔】

【注釈】誤: 「茲は面(つら)」ともいう。→ 正: 「頬は面(つら)」ともいう。

◆ぼくたく【木鐸】

【出典】誤: 『論語(ろんご)』八欵(はちいつ)→ 正: 『論語(ろんご)』八佾(はちいつ)

◆ほそくてもはりはのめぬ【細くても針は吞めぬ】

【見出し語】誤: ほそくてもはりはのめぬ【細くても針は圓めぬ】→ 正: ほそくてもはりはのめぬ【細くても針は吞めぬ】

【本文】誤: どんなに細くても針を圓み込むことはできないように→ 正: どんなに細くても針を吞み込むことはできないように

【注釈】誤: 「針は圓まれず」ともいう。→ 正: 「針は吞まれず」ともいう。

◆ほぞをかむ【臍を噛む】

【見出し語】誤: ほぞをかむ【臍を筋む】→ 正: ほぞをかむ【臍を噛む】

【注釈】誤: 自分のへそは自分では筋めないのに、→ 正: 自分のへそは自分では噛めないのに、

【注釈】誤: それでも筋もうとしていらいらする意から。→ 正: それでも噛もうとしていらいらする意から。

【用例】誤: 今さら臍を筋んでも、→ 正: 今さら臍を噛んでも、

◆ほとけのかおもさんど【仏の顔も三度】

【類句】誤: 兎(うさぎ)も七日(なぬか)なぶれば筋(か)みつく→ 正: 兎(うさぎ)も七日(なぬか)なぶれば噛(か)みつく

◆ほらとらっぱはおおきくふけ【法螺と喇叭は大きく吹け】

【本文】誤: どうせ鬮(うそ)をつくなら→ 正: どうせ嘘(うそ)をつくなら

◆ほんまつてんとう【本末転倒】

【注釈】誤: 「転倒」は「莖倒」とも書く。→ 正: 「転倒」は「顛倒」とも書く。

◆まがらねばよがわたられぬ【曲がらねば世が渡られぬ】

【類句】誤: 人と鬮風(びょうぶ)は直(す)ぐには立たぬ→ 正: 人と屏風(びょうぶ)は直(す)ぐには立たぬ

◆まけずもうのやせしこ【負け相撲の瘦せ四股】

【見出し語】誤: まけずもうのやせしこ【負け相撲の魄せ四股】→ 正: まけずもうのやせしこ【負け相撲の瘦せ四股】

◆まこそうよう【麻姑搔痒】

【見出し語】誤: まこそうよう【麻姑惜痒】→ 正: まこそうよう【麻姑搔痒】

【注釈】誤: この爪で痒(かゆ)い所を惜(か)いてもらったらさぞよい気持ちだろうと思ったということから。
→ 正: この爪で痒(かゆ)い所を搔(か)いてもらったらさぞよい気持ちだろうと思ったということから。

【注釈】誤: 「麻姑を倩(やと)うて痒きを惜く」ともいう。→ 正: 「麻姑を倩(やと)うて痒きを搔く」ともいう。

【反句】誤: 隔靴(かっか)惜痒→ 正: 隔靴(かっか)搔痒

【用例】誤: 麻姑惜痒の心配り。→ 正: 麻姑搔痒の心配り。

◆まめをにるにまめがらをたく【豆を煮るに萁を燃く】

【見出し語】誤: まめをにるにまめがらをたく【豆を煮るに愿を燃く】→ 正: まめをにるにまめがらをたく
【豆を煮るに萁を燃く】

【注釈】誤: 「愿」は豆を取ったあとの莢(さや)や枝や茎のことで、→ 正: 「萁」は豆を取ったあとの莢(さや)や枝や茎のことで、

【注釈】誤: 豆を煮るのに同じ根から育った愿を使う意から。→ 正: 豆を煮るのに同じ根から育った萁を使う意から。

◆みえばるよりほおばれ【見栄張るより頬張れ】

【見出し語】誤: みえばるよりほおばれ【見栄張るより茲張れ】→ 正: みえばるよりほおばれ【見栄張るより頬張れ】

【注釈】誤: 遠慮なく茲張ってうまさを味わえの意から。→ 正: 遠慮なく頬張ってうまさを味わえの意から。

【類句】誤: 義理張るより茲張れ→ 正: 義理張るより頬張れ

◆みつごのたましいひやくまで【三つ子の魂百まで】

【類句】誤: 筋(か)む馬はしまいまで筋む→ 正: 噛(か)む馬はしまいまで噛む

◆みのなるきははなからしれる【実の生る木は花から知れる】

【類句】誤: 蛇(じゃ)は寸にして人を鬩(の)む→ 正: 蛇(じゃ)は寸にして人を呑(の)む

◆むかしせんりもいまいちり【昔千里も今一里】

【類句】誤: 騏蚪(きりん)も老いては驚馬(どば)に劣る→ 正: 騏驎(きりん)も老いては驚馬(どば)に劣る

◆むかしのつるぎ、いまのながたな【昔の剣、今の菜刀】

【類句】誤: 騏蚪(きりん)も老いては驚馬(どば)に劣る→ 正: 騏驎(きりん)も老いては驚馬(どば)に劣る

◆むじゅん【矛盾】

【用例】誤: [森貂外『洪江抽斎』]→ 正: [森鷗外『洪江抽斎』]

◆めからはなへぬける【目から鼻へ抜ける】

【用例】誤: [森貂外『じいさんばあさん』]→ 正: [森鷗外『じいさんばあさん』]

◆めをむくよりくちをむけよ【目を剝くより口を向けよ】

【見出し語】誤: めをむくよりくちをむけよ【目を鬩くより口を向けよ】→ 正: めをむくよりくちをむけよ【目を剝くより口を向けよ】

◆めんぴをはぐ【面皮を剝ぐ】

【見出し語】誤: めんぴをはぐ【面皮を鬩ぐ】→ 正: めんぴをはぐ【面皮を剝ぐ】

【注釈】誤: 厚かましい面(つら)の皮を鬩いでその下にあるほんとうの顔をむき出しにする意から。→ 正: 厚かましい面(つら)の皮を剝いでその下にあるほんとうの顔をむき出しにする意から。

【注釈】誤: 「面の皮を鬩ぐ」ともいう。→ 正: 「面の皮を剝ぐ」ともいう。

【用例】誤: すっかり面皮を鬩がれてしまったと、→ 正: すっかり面皮を剝がれてしまったと、

◆もえついてからのひきとう【燃えついてからの火祈禱】

【見出し語】誤: もえついてからのひきとう【燃えついてからの火祈匱】→ 正: もえついてからのひきとう

【燃えついてからの火祈禱】

◆もつけのさいわい【物怪の幸い】

【用例】誤: [森貂外『寒山拾得』]→ 正: [森鷗外『寒山拾得』]

◆もったやまいはなおらぬ【持った病は治らぬ】

【類句】誤: 筋(か)む馬はしまいまで筋む→ 正: 噛(か)む馬はしまいまで噛む

◆もとのもくあみ【元の木阿弥】

【英例】誤: to return home as wise as one went (少しも賢くならず案ってくる)→ 正: to return home as wise as one went (少しも賢くならず戻ってくる)

◆もぬけのから【蛻の殻】

【注釈】誤: 「蛻」は蛇や烏(せみ)などが脱皮することで、→ 正: 「蛻」は蛇や蟬(せみ)などが脱皮することで、

◆やけど、ひにおじる【火傷、火に怖じる】

【類句】誤: 蛇に筋(か)まれて朽ち縄に怖じる→ 正: 蛇に噛(か)まれて朽ち縄に怖じる

◆やこぜん【野狐禅】

【出典】誤: 蘇軾(そしよく)「常州太平寺法華院搯葡萄亭醉題(じょうしゅうたいへいじのほっけいんせんぷくていによいてだいです)」→ 正: 蘇軾(そしよく)「常州太平寺法華院蒼葡萄亭醉題(じょうしゅうたいへいじのほっけいんせんぷくていによいてだいです)」

◆やせうしかもかずたかれ【瘦せ牛も数たかれ】

【見出し語】誤: やせうしかもかずたかれ【魄せ牛も数たかれ】→ 正: やせうしかもかずたかれ【瘦せ牛も数たかれ】

【注釈】誤: 魄せて力の弱そうな牛も、→ 正: 瘦せて力の弱そうな牛も、

◆やせうでにもほね【瘦せ腕にも骨】

【見出し語】誤: やせうでにもほね【魄せ腕にも骨】→ 正: やせうでにもほね【瘦せ腕にも骨】

【注釈】誤: 魄せて非力な腕にも、→ 正: 瘦せて非力な腕にも、

◆やせうまにおもに【瘦せ馬に重荷】

【見出し語】誤: やせうまにおもに【魄せ馬に重荷】→ 正: やせうまにおもに【瘦せ馬に重荷】

【注釈】誤: 魄せ衰えた馬に、→ 正: 瘦せ衰えた馬に、

◆やせうまのこえおどし【瘦せ馬の声嚇し】

【見出し語】誤: やせうまのこえおどし【魄せ馬の声嚇し】→ 正: やせうまのこえおどし【瘦せ馬の声嚇し】

【本文】誤: 魄せた馬が→ 正: 瘦せた馬が

【類句】誤: 魄せ子の声高(こえだか)/魄せ子の大声→ 正: 瘦せ子の声高(こえだか)/瘦せ子の大声

◆やせうまのみちいそぎ【瘦せ馬の道急ぎ】

【見出し語】誤: やせうまのみちいそぎ【魄せ馬の道急ぎ】→ 正: やせうまのみちいそぎ【瘦せ馬の道急ぎ】

【注釈】誤: 魄せた馬に限って、→ 正: 瘦せた馬に限って、

◆やせごにもうぶすな【瘦せ子にも産土】

【見出し語】誤: やせごにもうぶすな【魄せ子にも産土】→ 正: やせごにもうぶすな【瘦せ子にも産土】

【本文】誤: 魄せたからだの弱い子にも→ 正: 瘦せたからだの弱い子にも

【注釈】誤: 「魄せ子にも産神(うぶがみ)」ともいう。→ 正: 「瘦せ子にも産神(うぶがみ)」ともいう。

◆やせじらみをやりではぐ【瘦せ虱を鏝で剝ぐ】

【見出し語】誤: やせじらみをやりではぐ【魄せ虱を鏝で鬧ぐ】→ 正: やせじらみをやりではぐ【瘦せ虱を鏝で剝ぐ】

◆やせてもかれても【瘦せても枯れても】

【見出し語】誤: やせてもかれても【魄せても枯れても】→ 正: やせてもかれても【瘦せても枯れても】

【注釈】誤: どんなに外見が魄せ衰えようとも、→ 正: どんなに外見が瘦せ衰えようとも、

【用例】誤: 魄せても枯れても社長だ。→ 正: 瘦せても枯れても社長だ。

◆やせのおおぐい【瘦せの大食い】

【見出し語】誤: やせのおおぐい【魄せの大食い】→ 正: やせのおおぐい【瘦せの大食い】

【本文】誤: 魄せているから少食だろうと思う人が→ 正: 瘦せているから少食だろうと思う人が

【用例】誤: 彼は魄せの大食いで、→ 正: 彼は瘦せの大食いで、

◆やせほうしのすごのみ【瘦せ法師の酔好み】

【見出し語】誤: やせほうしのすごのみ【魄せ法師の酔好み】→ 正: やせほうしのすごのみ【瘦せ法師の酔好み】

【注釈】誤: 魄せた僧が、→ 正: 瘦せた僧が、

◆やせやまのぞうき【瘦せ山の雑木】

【見出し語】誤: やせやまのぞうき【魄せ山の雑木】→ 正: やせやまのぞうき【瘦せ山の雑木】

【注釈】誤: 「魄せ山」は地味が悪く良材が育たない山。→ 正: 「瘦せ山」は地味が悪く良材が育たない山。

【注釈】誤: 魄せた山に生えている材質の悪い木という意から。→ 正: 瘦せた山に生えている材質の悪い木という意から。

◆やぶいしゃのやくみだんす【藪医者 of 薬味 筍 筒】

【見出し語】誤: やぶいしゃのやくみだんす【藪医者 of 薬味 眞 筒】→ 正: やぶいしゃのやくみだんす【藪医者 of 薬味 筍 筒】

◆やまにつまずかずしてつにつまずく【山に躓かずして埜に躓く】

【英例】誤: Swallow an ox and be choked with the tail. (雄牛を 罨(の)み込んで尻尾(しっぽ)をのどにつまらせる)→ 正: Swallow an ox and be choked with the tail. (雄牛を 蚕(の)み込んで尻尾(しっぽ)をのどにつまらせる)

◆ようじょうにみがやせる【養生に身が瘦せる】

【見出し語】誤: ようじょうにみがやせる【養生に身が 魄 せる】→ 正: ようじょうにみがやせる【養生に身が 瘦 せる】

【本文】誤: かえって 魄 せてしまうということ。→ 正: かえって 瘦 せてしまうということ。

◆ようによりてころをえがく【様に依りて葫蘆を画く】

【注釈】誤: 「葫蘆」は瓢 眞 (ひょうたん) のこと。→ 正: 「葫蘆」は瓢 筍 (ひょうたん) のこと。

【注釈】誤: 外見だけ整った瓢 眞 の絵を描くという意。→ 正: 外見だけ整った瓢 筍 の絵を描くという意。

◆ようやくかきょうにいる【漸く佳境に入る】

【注釈】誤: 中国東晋(とうしん)の画家顧 祥 之(こがいし)が甘蔗(かんしょ)(砂糖黍(さとうきび))を食べるとき、→ 正: 中国東晋(とうしん)の画家顧 愷 之(こがいし)が甘蔗(かんしょ)(砂糖黍(さとうきび))を食べるとき、

【出典】誤: 『晋書(しんじょ)』顧 祥 之 → 正: 『晋書(しんじょ)』顧 愷 之

◆よればよりくず【選れば選り屑】

【類句】誤: 選んでかすを 拙 (つか)む → 正: 選んでかすを 摑 (つか)む

◆よわうまみちをいそぐ【弱馬道を急ぐ】

【本文】誤: ⇒ 魄 (や)せ馬(うま)の道急(みちいそぎ) → 正: ⇒ 瘦 (や)せ馬(うま)の道急(みちいそぎ)

◆りゅうのひげをありがねらう【竜の髭を蟻が狙う】

【類句】誤: 訶 (ごまめ)の齒軋(はぎし)り → 正: 鯉 (ごまめ)の齒軋(はぎし)り

◆りゅうはいっすんにしてしょうてんのきあり【竜は一寸にして昇天の気あり】

【類句】誤: 蛇(じゃ)は寸にして人を**鬨**(の)む/虎豹(こひょう)の駒(く)は食牛の気あり→ 正: 蛇(じゃ)は寸にして人を**吞**(の)む/虎豹(こひょう)の駒(く)は食牛の気あり

◆りゅうめのつまずき【竜馬の躓き】

【類句】誤: 騏**蚪**(きりん)の躓き→ 正: 騏**麟**(きりん)の躓き

◆りょうほうよいのはほおかむり【両方よいのは頬冠り】

【見出し語】誤: りょうほうよいのはほおかむり【両方よいのは**茲**冠り】→ 正: りょうほうよいのはほおかむり【両方よいのは**頬**冠り】

【注釈】誤: 「両方」に「両**茲**」をかけている。→ 正: 「両方」に「両**頬**」をかけている。

【注釈】誤: 「両方よいは**茲**冠り」ともいう。→ 正: 「両方よいは**頬**冠り」ともいう。

◆りょうゆうならびたたず【両雄並び立たず】

【出典】誤: 『史記(しき)』**瞿**生(れきせい)→ 正: 『史記(しき)』**酈**生(れきせい)

◆るいをもってあつまる【類を以て集まる】

【出典】誤: 『易経(えききょう)』**壓**辞(けいじ)・上→ 正: 『易経(えききょう)』**繫**辞(けいじ)・上

◆ろうそくはみをへらしてひとをてらす【蠟燭は身を減らして人を照らす】

【見出し語】誤: ろうそくはみをへらしてひとをてらす【**檠**燭は身を減らして人を照らす】→ 正: ろうそくはみをへらしてひとをてらす【**蠟**燭は身を減らして人を照らす】

【注釈】誤: **檠**燭が自分自身を溶かし、→ 正: **蠟**燭が自分自身を溶かし、

◆ろめいけんばい【驢鳴犬吠】

【出典】誤: 張**獲**(ちょうさく)「朝野僉載(ちょうやせんさい)」六→ 正: 張**鷹**(ちょうさく)「朝野僉載(ちょうやせんさい)」六

◆ろめいをつなぐ【露命を繫ぐ】

【見出し語】誤: ろめいをつなぐ【露命を**壓**ぐ】→ 正: ろめいをつなぐ【露命を**繫**ぐ】

【用例】誤: 家族三人が露命を**壓**ぐ。→ 正: 家族三人が露命を**繫**ぐ。

◆わがかどでほえぬいぬなし【我が門で吠えぬ犬なし】

【類句】誤: 家(うち)の前の**魄**(や)せ犬→ 正: 家(うち)の前の**瘦**(や)せ犬

◆わがころいしにあらず、てんずべからず【我が心石に非ず、転ずべからず】

【出典】誤:『詩経(しきょう)』癩風(はいふう)・柏舟(はくしゅう)→ 正:『詩経(しきょう)』邶風(はいふう)・柏舟(はくしゅう)

◆わらにもすがる【藁にも縋る】

【本文】誤:溺(おぼ)れる者(もの)は藁(わら)をも拙(つか)む→ 正:溺(おぼ)れる者(もの)は藁(わら)をも握(つか)む